



# AppsWF セットアップガイド Salesforce 版

Ver.1.3

株式会社オプロ

改訂履歴

Ver.	改訂日	改訂内容
1.0	2019/10/03	新規発行
1.1	2020/03/17	「2.5.1 イントラマートのサイト設定手順」の手順、項目説明の変更 「2.5.2 OPROARTS のサイト情報の確認」の手順、項目説明の変更 「4.1.1 ステータス表示用の項目追加」の手順説明の修正 「4.1.4 メールタイトル用数式の項目追加」の項目説明の修正 「4.1.5 メール本文用数式の項目追加」の項目説明の修正 「4.5 メールテンプレートの設定」の手順、項目説明の修正
1.2	2021/01/07	「4.6 オブジェクトレコードロックの設定」の説明追記
1.3	2022/12/13	「2.2.1 インストールの手順」の手順変更

本書に記載されている会社名、製品名、サービス名などは、提供各社の商標、登録商標、商品名です。  
 なお、本文中に TM マーク、©マークは明記しておりません。

## 本書の使い方

本書は株式会社オプロが提供する「AppsWF」のセットアップガイド（Salesforce 版）です。

本書をご利用いただくことで、AppsWF と Salesforce を連携するための動作環境を設定する手順を理解できることを目的としています。

本書「2 Salesforce の初期設定」で動作環境を設定後、ワークフローの設定については「AppsWF ワークフロー設定ガイド」を参照してください。

ワークフロー設定後は、引き続き本書「4 Salesforce の設定」以降をご覧ください。

AppsWF の操作については、「AppsWF ユーザガイド（Salesforce 版）」を参照してください。

## 本書の表記

本書では、以下の表記で記載しています。

表記方法	内容
<b>注意</b>	操作上の注意事項について記載しています。
<b>Point</b>	操作するうえで知っていると便利なポイントについて記載しています。
<b>参照</b>	本書における参照先を記載しています。
[ ]	ボタン名やタブ名、キーボードのキーなどの表記で使用します。
「 」	システム名、メニュー名、画面名、項目名、参照先などの表記で使用します。
{ }	条件によって異なる名称や文字列が入る可変値の表記で使用します。

# 目次

<b>1. はじめに</b> .....	<b>6</b>
1.1 概要.....	6
1.2 制限事項.....	7
<b>2. Salesforce の初期設定</b> .....	<b>8</b>
2.1 プロファイルの作成.....	9
2.1.1 プロファイルの作成手順.....	9
2.2 パッケージのインストール.....	11
2.2.1 インストールの手順.....	11
2.2.2 完了確認.....	13
2.3 翻訳の有効化.....	14
2.3.1 有効化の手順.....	14
2.4 接続設定の登録.....	15
2.4.1 接続設定の編集手順.....	15
2.5 リモートサイトの設定.....	18
2.5.1 イントラマートのサイト設定手順.....	18
2.5.2 OPROARTS のサイト情報の確認.....	19
2.6 ユーザの追加.....	21
2.6.1 ユーザの追加手順.....	21
2.7 プロファイルの設定.....	22
2.7.1 パッケージに含まれるプロファイルを利用する場合.....	22
2.7.2 パッケージに含まれない既存のプロファイルを利用する場合.....	23
<b>3. ワークフローの設定</b> .....	<b>33</b>
<b>4. Salesforce の設定</b> .....	<b>34</b>
4.1 ワークフローを利用するオブジェクトごとの設定.....	35
4.1.1 ステータス表示用の項目追加.....	35
4.1.2 ステータスを表示する数式の項目追加.....	40
4.1.3 優先度を表示する数式の項目追加.....	44
4.1.4 メールタイトル用数式の項目追加.....	44
4.1.5 メール本文用数式の項目追加.....	44
4.1.6 レコードロック用の項目追加.....	46
4.1.7 レコードロック用の入力規則追加.....	48
4.1.8 ワークフロー画面遷移用のカスタムボタン追加.....	49
4.2 Chatter 通知用グループの追加.....	52
4.2.1 Chatter 通知用グループの追加手順.....	52
4.3 フローオブジェクトマッピング.....	53
4.3.1 フローオブジェクトマッピングの手順.....	53
4.4 案件情報取得周期の設定.....	56

4.4.1	案件情報取得周期の設定手順.....	56
4.5	メールテンプレートの設定 .....	58
4.5.1	メールテンプレートの確認 .....	58
4.5.2	メールテンプレートの設定方法.....	59
4.6	オブジェクトレコードロックの設定 .....	61
4.6.1	レコードロック機能を使用する場合の設定手順 .....	61

# 1. はじめに

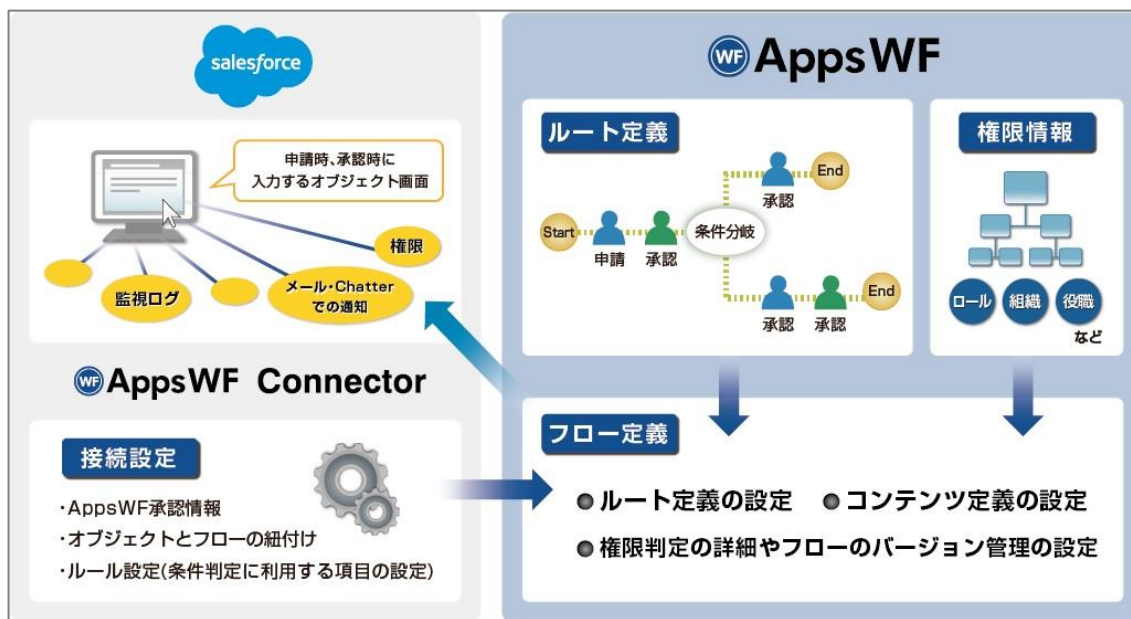
ここでは AppsWF (Salesforce 版) の概要や操作上の注意事項・制限事項について説明します。

AppsWF は、Salesforce と連携した高機能ワークフローソリューションです。  
Salesforce の手軽さを活かしつつ、本格的なワークフローの構築が実現できます。  
本書では、Salesforce 組織への環境構築手順、および操作方法について説明します。

## 1.1 概要

AppsWF の製品概要について説明します。

- Salesforce の画面上からシームレスにワークフローの設定を行い、利用できます。
- ルートの定義、権限の設定などの基本的な設定から、代理申請・並列フロー・動的承認など、高度な要求にも対応できます。
- アイコンによる視覚的なフロー確認画面となっており、業務フローを可視化できます。



## 1.2 制限事項

### ■ Salesforce のエディション

「Professional Edition」以上である必要があります。

(Professional、Enterprise、Unlimited、Force.com、DE、Performance のいずれかのエディションが必要です。)

### ■ 推奨ブラウザは、次のとおりです。

OS	ブラウザ
Windows	Internet Explorer 11 Microsoft Edge 最新版 Mozilla Firefox 最新版 Google Chrome 最新版
macOS	Safari 最新版 Mozilla Firefox 最新版
iPhone / iPad	Safari (最新の iOS 11、12)
Android	Android Chrome 最新版

※クライアント OS 上で動作する Web ブラウザのみを動作保証します。

※Internet Explorer に搭載されている「互換表示」機能、もしくはエンタープライズモード (IE11) を使用しての表示は動作保証外です。

互換表示の解除方法は Salesforce ヘルプの「[Internet Explorer の互換モードを無効にする](#)」をご確認ください。

※Firefox の ESR 版はサポート対象外です。

## 2. Salesforce の初期設定

AppsWF の Salesforce 側の初期設定を行います。「AppsWF プロファイルの作成」から、「AppsWF パッケージの Salesforce 組織へのインストール」や「プロファイルの設定」等について説明します。

2 章における手順の流れは次のとおりです。





## 2.1 プロファイルの作成

デモ等でパッケージに含まれるプロフィールを利用する場合は、パッケージのインストール前に以下の名称にてプロフィールを作成してください（使用している組織によって、追加できるライセンスは異なります）。

プロフィール名	ユーザライセンス
AppsWF Admin	Salesforce <ul style="list-style-type: none"> <li>● Salesforce の既存のプロフィール「システム管理者」相当からコピーします。</li> </ul>
AppsWF Standard	Salesforce Platform <ul style="list-style-type: none"> <li>● Salesforce の既存のプロフィール「標準 Platform ユーザ」相当からコピーします。</li> </ul>

### 2.1.1 プロファイルの作成手順

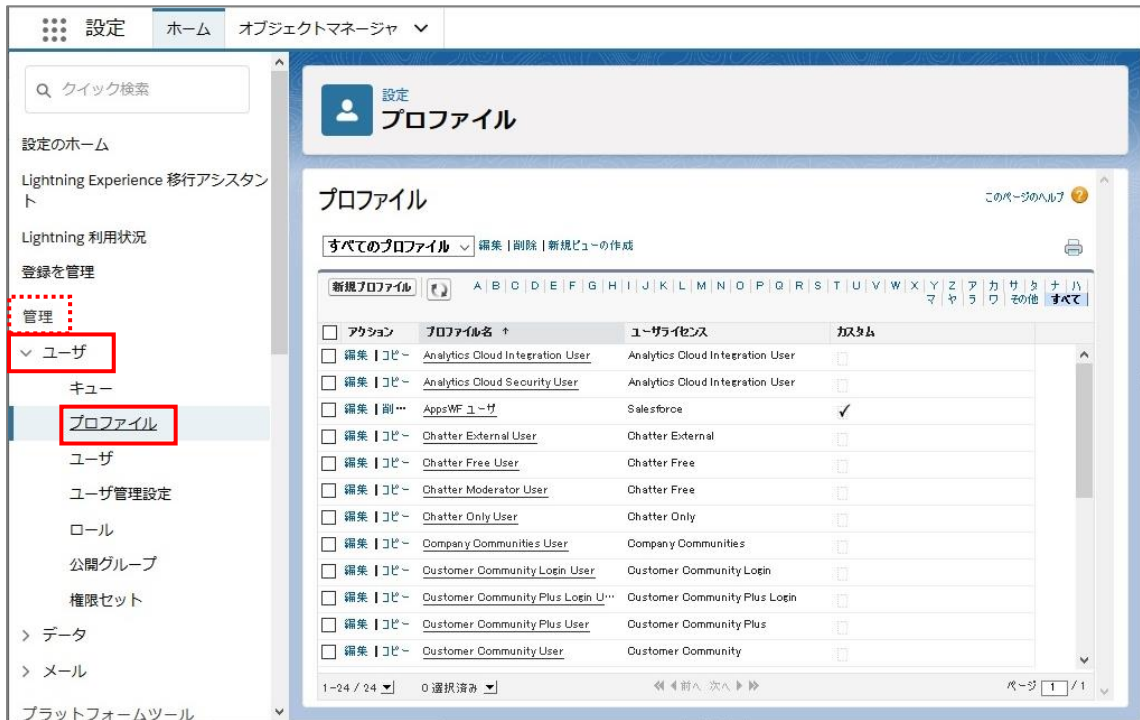
1. 画面右上の [⚙️] > [設定] をクリックします。



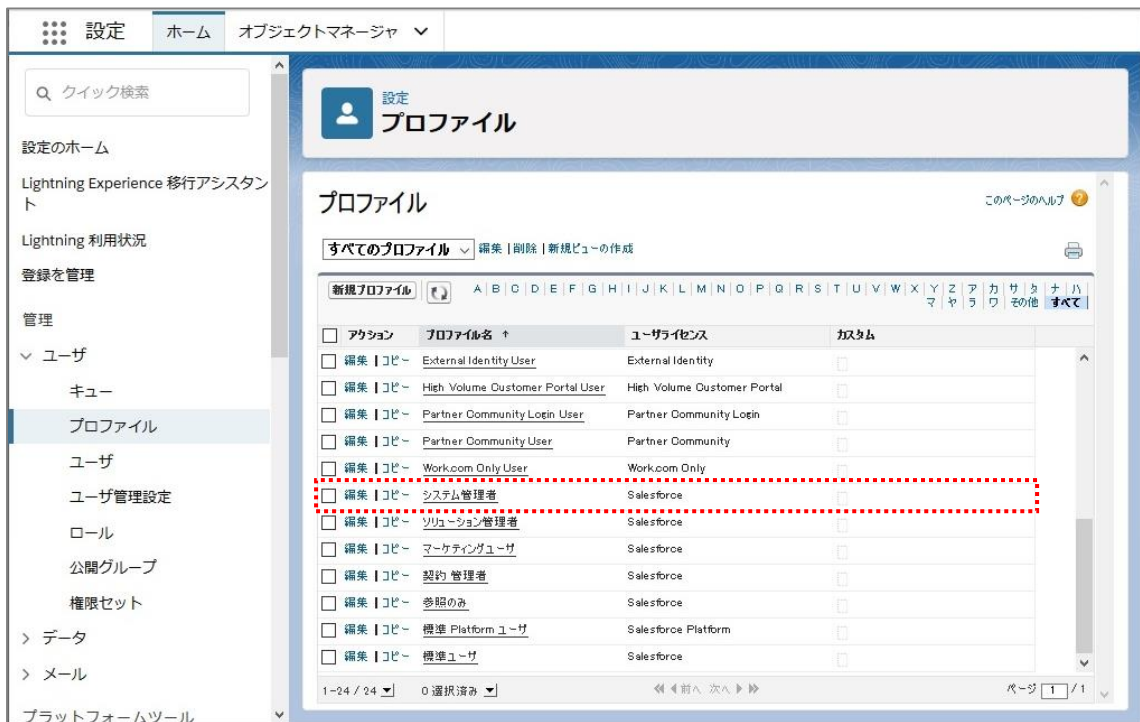
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。



3. サイドバーの「管理」で [ユーザ] > [プロフィール] をクリックします。「プロフィール」画面が表示されます。



4. Salesforce の既存のプロフィール「システム管理者」に相当するプロフィールが表示されるまで画面を下にスクロールします。



5. 該当行の [コピー] をクリックします。

アクション	プロフィール名 ↑	ユーザライセンス	カスタム
<input type="checkbox"/> 編集   コピー	External Identity User	External Identity	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 編集   コピー	High Volume Customer Portal User	High Volume Customer Portal	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 編集   コピー	Partner Community Login User	Partner Community Login	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 編集   コピー	Partner Community User	Partner Community	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 編集   コピー	Work.com Only User	Work.com Only	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 編集   <b>コピー</b>	システム管理者	Salesforce	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/> 編集   コピー	ソリューション管理者	Salesforce	<input type="checkbox"/>

6. 「プロフィールのコピー」画面が表示されます。「プロフィール名」に「AppsWF Admin」と入力します。

Lightning Experience 移行アシスタント

Lightning 利用状況

登録を管理

管理

ユーザ

キュー

プロフィール

ユーザ

### プロフィールのコピー

このページのヘルプ

プロフィール名を入力してください。

コピーをする既存のプロフィールを選択してください。 ! = 必須情報

既存のプロフィール	ユーザライセンス	プロフィール名
システム管理者	Salesforce	AppsWF Admin

保存 キャンセル

7. [保存] ボタンをクリックします。
8. 同様の手順（手順 4～7）で、プロフィール「AppsWF Standard」も作成（「標準 Platform ユーザ」相当からコピー）してください。

## 2.2 パッケージのインストール

AppsWF パッケージを Salesforce 組織へインストールします。

### 2.2.1 インストールの手順

1. 使用している Salesforce 組織にシステム管理者権限でログインします。



ユーザ名

パスワード

**ログイン**

ログイン情報を保存する

[パスワードをお忘れですか?](#)

2. 弊社からお送りしているインストール URL のリンクをクリックします。

**Point**

- 本番組織用と Sandbox 用でリンクが異なります。インストールしたい組織の種別の URL にアクセスします。
- URL が無い場合、お手数ですが弊社サポートサイトよりお問い合わせください。  
<https://spc.opro.net/hc/ja>

3. インストールしたい組織（本番もしくは Sandbox）にログインします。



The image shows the Salesforce login interface. At the top is the Salesforce logo. Below it is a login form with the following elements:

- ユーザ名** (Username): A text input field containing a masked email address ending in "@jp.opro.net".
- パスワード** (Password): A text input field with masked characters (dots).
- ログイン** (Login): A blue button.
- ログイン情報を保存する (Save login information).
- [パスワードをお忘れですか?](#) (Forgot your password?).

4. 以降は画面の指示に従って、インストールを続行してください。

## 2.2.2 完了確認

1. 画面右上の [⚙️] > [設定] をクリックします。
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。
3. サイドバーの「プラットフォームツール」で [アプリケーション] > [パッケージ] > [インストール済みパッケージ] をクリックします。「インストール済みパッケージ」画面が表示されます。

インストール済みパッケージ

AppExchange ページでは、開発済みのアプリケーションやコンポーネントを参照したり、トライアルをしたり、ダウンロードして、お客様の salesforce.com AppExchange 環境に直接インストールしたりすることができます。パッケージのインストールの詳細はこちらをご覧ください。

アプリケーションやコンポーネントは、パッケージでインストールされます。インストール直後は、すべてのカスタムアプリケーション、タブ、およびカスタムオブジェクトに「開発中」のマークが付いており、組織内のユーザーは利用できません。このため、アプリケーションをテストおよびカスタマイズしてからリリースできます。コンポーネントは、「リリース」をクリックして、他の設定機能を使用して個々にリリースしたり、グループ単位でリリースしたりできます。

インストール済みパッケージの横にあるリンクにより、このページから別のアクションを実行できます。

パッケージを削除するには、「アンインストール」をクリックします。パッケージのライセンスを管理するには、「ライセンスの管理」をクリックします。

アクション	パッケージ名	公開者	バージョン番号	名前空間プレフィックス	状況	許可されているライセンス数	使用ライセンス	有効期限	インストール
アンインストール	AppsWF Connector	日本オ ブイ株 式会社	1.55	appswf	有効	Unlimited	0	有効期限 はありません	2019/ 14:20

説明  
AppsWFの管理パッケージです。

4. 「インストール済みパッケージ」に「AppsWF Connector」が表示されていれば、インストールは完了しています。

インストール済みパッケージ

アクション	パッケージ名	公開者	バージョン番号	名前空間プレフィックス	状況	許可されているライセンス数	使用ライセンス	有効期限	インストール
アンインストール	AppsWF Connector	日本オ ブイ株 式会社	1.55	appswf	有効	Unlimited	0	有効期限 はありません	2019/ 14:20

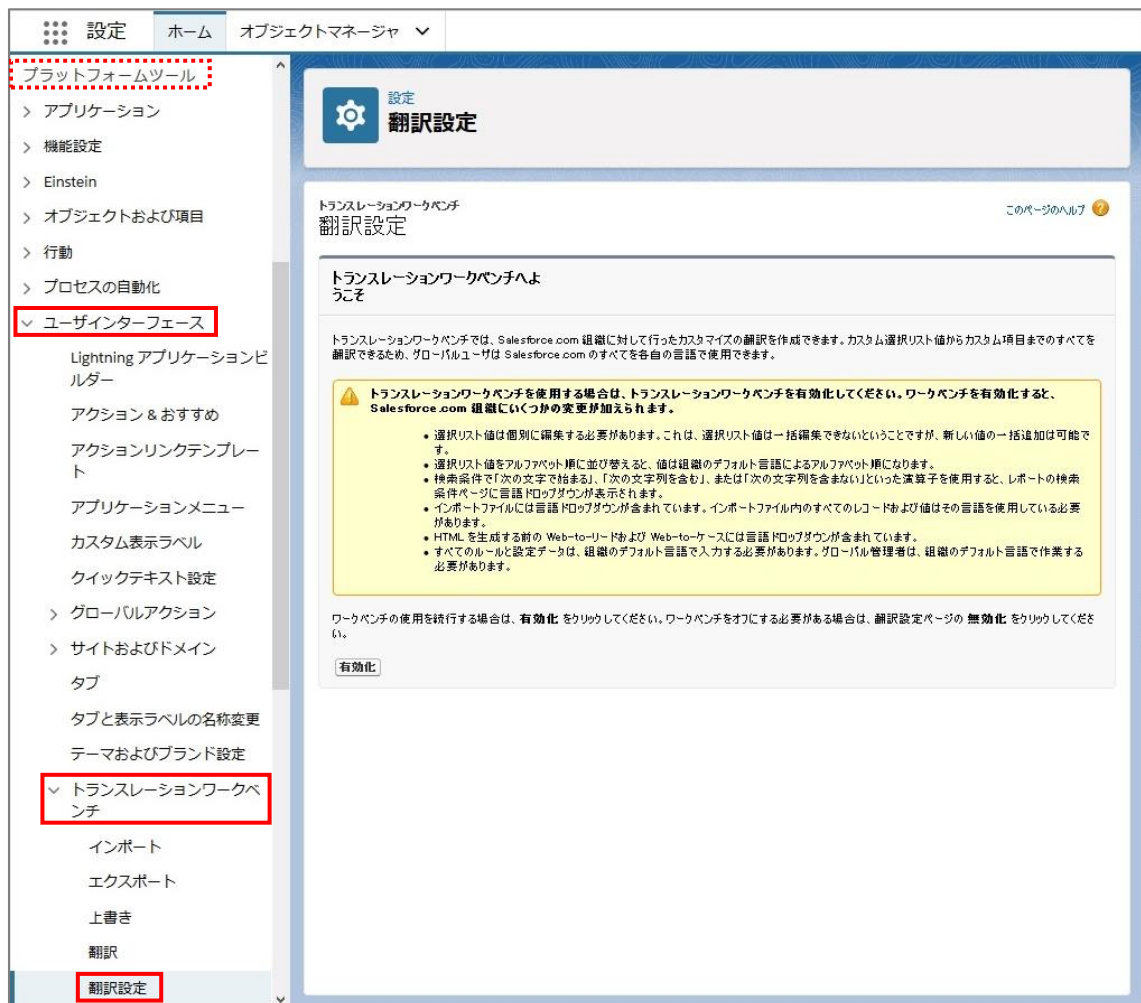
説明  
AppsWFの管理パッケージです。

## 2.3 翻訳の有効化

トランスレーションワークベンチを使用可能にするため、翻訳の有効化を行います。

### 2.3.1 有効化の手順

1. 画面右上の [設定] > [設定] をクリックします。
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。
3. サイドバーの「プラットフォームツール」で [ユーザインターフェース] > [トランスレーションワークベンチ] > [翻訳設定] をクリックします。[翻訳設定] 画面が表示されます。



4. [有効化] ボタンをクリックします。



**注意** デフォルトで有効化されている場合、[有効化] ボタンの代わりに [無効化] ボタンが表示されます。誤ってクリックしないようにしてください。

## 2.4 接続設定の登録

弊社より提供の認証情報を参照し、接続設定を新規登録します。

### 2.4.1 接続設定の編集手順

すでに AppsWF が起動している場合は、手順 5 から開始してください。

1. 画面左上の [☰] をクリックします。
2. アプリケーションランチャーが表示されます。
3. [AppsWF] をクリックします。



4. AppsWF の画面が表示されます。



5. [接続設定] タブをクリックします。



6. 「最近参照したデータ」画面が表示されます。[新規] をクリックします。



7. 「接続設定の編集」画面が表示されます。



8. 弊社より提供の認証情報を参照し、各項目に入力します。

項目名	入力必須	説明
CID	○	認証情報-CID ● 認証情報の①を入力します。
UID	○	AppsWF 用-UID ● 認証情報の②を入力します。
UPW	○	AppsWF 用-UPW ● 認証情報の③を入力します。
テナント ID	○	WF エンジン接続情報-テナント ID ● 認証情報の⑤を入力します。
ワークフロー初期管理者 ID	○	WF エンジン接続情報-初期設定ユーザ ● 認証情報の⑦を入力します。
ワークフロー初期管理者パスワード	○	WF エンジン接続情報-パスワード ● 認証情報の⑧を入力します。



項目名	入力必須	説明
ワークフローエンジン接続 URL	○	WF エンジン接続情報-URL <ul style="list-style-type: none"> <li>● URL を次のように入力します。 https://{認証情報の④}/imart/</li> <li>● 例) ④が appswf-elink.cloud-base.jp の場合 「https://appswf-elink.cloud-base.jp/imart/」と入力します。</li> </ul>
エラー通知先メールアドレス	-	エラー通知先メールアドレス <ul style="list-style-type: none"> <li>● 必要に応じて、エラー通知先のメールアドレスを入力します。</li> </ul>

認証情報

```

1 | PROARTS認証情報(本番環境)...2019/09/15 株式会社オプロ↓
2 | ↓
3 | 株式会社オプロ↓
4 | ↓
5 | 【認証情報(本番環境)】↓
6 | CID:XXXXXXXXXXXXXXXXX↓ ①
7 | ↓
8 | ↓
9 | ◎AppsWF用↓
10 | UID:.....UPW:↓
11 | YYYYYYYYYYYYYY ② ZZZZZZZZZZ ③
12 | ↓
13 | ↓
14 | 【WFエンジン接続情報】↓
15 | ↓
16 | 接続先ホスト名 : AAAAAAAAAA.cloud-base.jp↓ ④
17 | テナントID : Tenant↓ ⑤
18 | 会社コード : Code↓ ⑥
19 | 初期設定ユーザ : User↓ ⑦
20 | パスワード : Pass↓ ⑧
21 | ↓
22 | 以上[EOF]
    
```

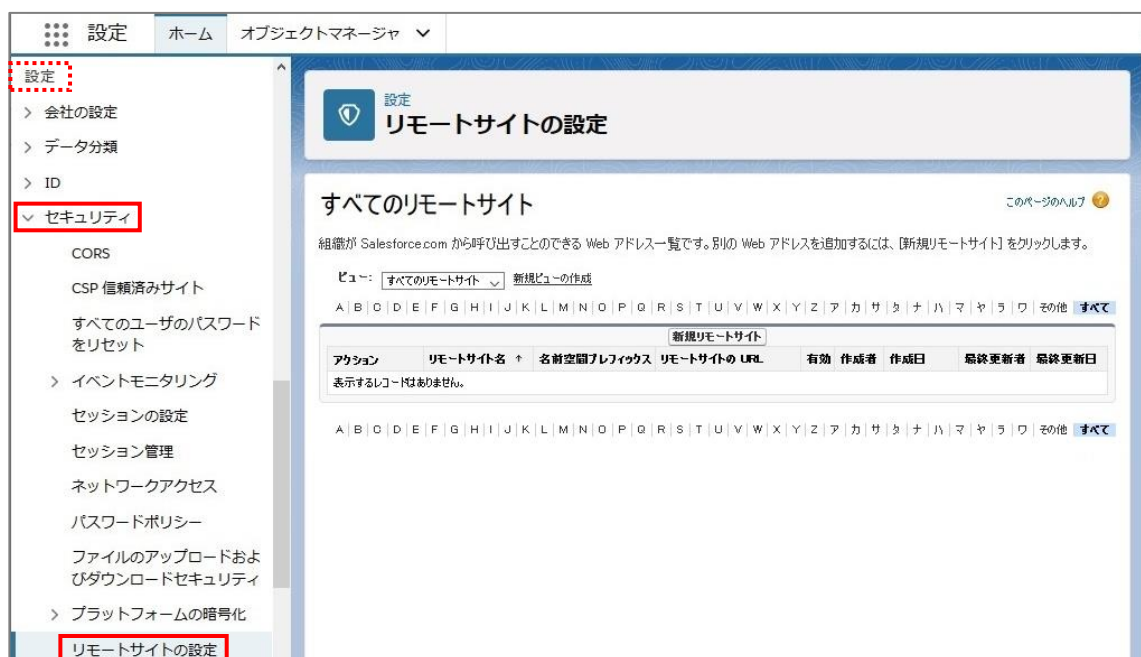
9. [保存] ボタンをクリックします。

## 2.5 リモートサイトの設定

Salesforce.com から呼び出すことのできるリモートサイトとして、イントラマートと OPROARTS のサイトを追加します。ここでは例として、上記 2 つのサイトを続けて追加する手順を記載します。

### 2.5.1 イントラマートのサイト設定手順

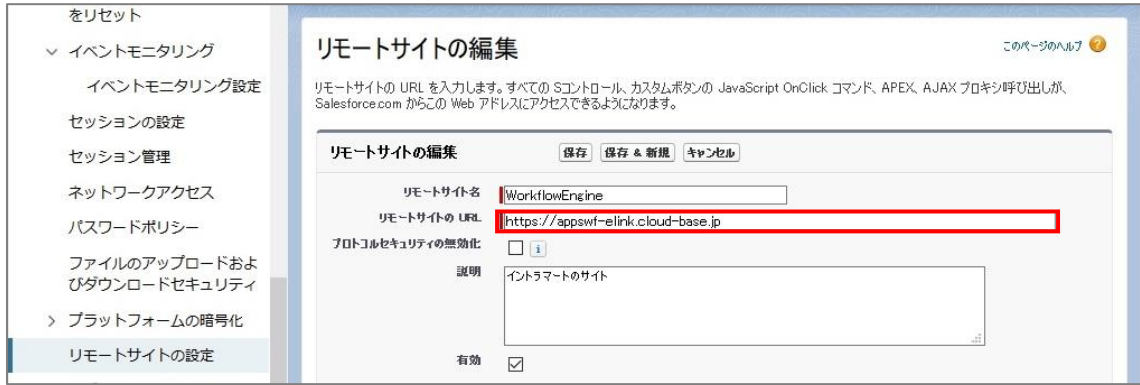
1. 画面右上の [設定] > [設定] をクリックします。
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。
3. サイドバーの「設定」で [セキュリティ] > [リモートサイトの設定] をクリックします。「すべてのリモートサイト」画面が表示されます。



4. 「WorkflowEngine」の[編集]をクリックします。



5. 「リモートサイトの編集」画面が表示されます。イントラマートのサイト情報を入力します。



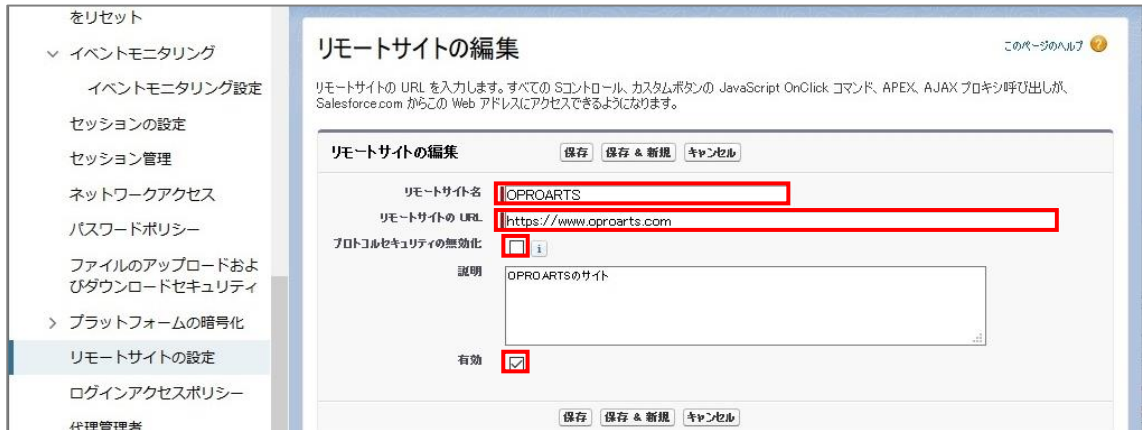
項目名	入力必須	説明
リモートサイト名	○	「WorkflowEngine」から変更は行わないでください。
リモートサイト URL	○	https://{接続先ホスト名} を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 例) 接続先ホスト名が appswf-elink.cloud-base.jp の場合 「https://appswf-elink.cloud-base.jp」と入力します。</li> <li>● 接続先ホスト名は、弊社より提供の認証情報に記載されています。</li> </ul>
プロトコルセキュリティの無効化	-	チェックは付けません。
説明	-	必要に応じてサイトの説明を入力します。
有効	-	デフォルトでチェックが付いています。 チェックを外さないでください。

6. [保存]ボタンをクリックします。



## 2.5.2 OPROARTS のサイト情報の確認

1. 「リモートサイトの編集」画面で、OPROARTS のサイト情報を確認します。  
※本設定の変更は実施する必要はありません。



項目名	入力必須	説明
リモートサイト名	○	「OPROARTS」から変更する必要はありません。
リモートサイト URL	○	「https://www.oproarts.com」から変更する必要はありません。
プロトコルセキュリティの無効化	-	チェックを付けません。
説明	-	必要に応じてサイトの説明を入力します。
有効	-	デフォルトでチェックが付いています。 チェックを外さないでください。

## 2.6 ユーザの追加

該当組織内で使用するユーザの追加を行います。

### 2.6.1 ユーザの追加手順

1. 画面右上の [設定] > [設定] をクリックします。
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。
3. サイドバーの「管理」で [ユーザ] > [ユーザ] をクリックします。「すべてのユーザ」画面が表示されます。

The screenshot shows the Salesforce user management interface. The left sidebar has a '管理' (Management) menu with 'ユーザ' (Users) selected. The main content area shows the 'すべてのユーザ' (All Users) page. The table below lists the users:

アクション	氏名	別名	ユーザ名	最終ログイン	ロール	有効	プロフィール
<input type="checkbox"/>   編集	田中 一郎	田中	appswfdemo001@appswfdemo.jp	2019/08/30 11:48		✓	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	吉田 次郎	吉田	appswfdemo002@appswfdemo.jp	2019/08/26 15:09		✓	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	会田 隆	会田	appswfdemo003@appswfdemo.jp	2019/07/10 14:50		✓	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	山田 利明	山田	appswfdemo004@appswfdemo.jp	2019/07/10 15:13		✓	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	徳井 明	徳井	appswfdemo005@appswfdemo.jp	2019/07/10 15:13		✓	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	出口 太郎	出口	appswfdemo006@appswfdemo.jp	2019/07/10 15:20		✓	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	今田 義彦	今田	appswfdemo007@appswfdemo.jp	2019/09/03 13:33		✓	AppsWF ユーザ

4. 追加ユーザが 1 人の場合、[新規ユーザ] ボタンをクリックします。  
追加ユーザが複数（最大 10 人）の場合、[複数のユーザを追加] ボタンをクリックします。

The screenshot shows a close-up of the user management interface. The '新規ユーザ' (New User) and '複数のユーザを追加' (Add Multiple Users) buttons are highlighted with red boxes.

**[参照]** 以降の手順については、Salesforce マニュアルや画面右上にある [このページのヘルプ] を参照し、実施してください。入力するユーザ情報については、該当組織のルールに従ってください。

## 2.7 プロファイルの設定

新規に作成したプロフィールのユーザへの設定、および既存のプロフィールへの権限設定を行います。

### 2.7.1 パッケージに含まれるプロフィールを利用する場合

「2.6 ユーザの追加」で追加したユーザに「2.1 プロファイルの作成」で作成したプロフィールを設定します。

「2.1 プロファイルの作成」でプロフィールを作成した場合のみ、有効です。

1. 画面右上の [設定] > [設定] をクリックします。
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。
3. サイドバーの「管理」で [ユーザ] > [ユーザ] をクリックします。「すべてのユーザ」画面が表示されます。

The screenshot shows the Salesforce user management interface. The left sidebar has '管理' (Management) selected, with 'ユーザ' (Users) highlighted. The main content area shows 'すべてのユーザ' (All Users) with a table of user details.

アクション	氏名 ↑	別名	ユーザ名	最終ログイン	ロール	有効	プロフィール
<input type="checkbox"/>   編集	田中 一郎	田中	appswfdemo001@appswfdemo.jp	2019/08/30 11:48		<input checked="" type="checkbox"/>	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	吉田 次郎	吉田	appswfdemo002@appswfdemo.jp	2019/08/26 15:09		<input checked="" type="checkbox"/>	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	会田 隆	会田	appswfdemo003@appswfdemo.jp	2019/07/10 14:50		<input checked="" type="checkbox"/>	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	山田 利朗	山田	appswfdemo004@appswfdemo.jp	2019/07/10 15:13		<input checked="" type="checkbox"/>	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	徳井 明	徳井	appswfdemo005@appswfdemo.jp	2019/07/10 15:13		<input checked="" type="checkbox"/>	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	出口 太郎	出口	appswfdemo006@appswfdemo.jp	2019/07/10 15:20		<input checked="" type="checkbox"/>	AppsWF ユーザ
<input type="checkbox"/>   編集	今田 雅彦	今田	appswfdemo007@appswfdemo.jp	2019/09/03 13:33		<input checked="" type="checkbox"/>	AppsWF ユーザ

4. 対象ユーザの [編集] をクリックします。

This is a close-up of the user list table from the previous screenshot. The '編集' (Edit) button for the first user, '田中 一郎', is highlighted with a red box.

5. 「ユーザ{ユーザ名}」画面が表示されます。

The screenshot shows the 'Edit User' form for '田中 一郎'. The form includes fields for name, email, and user name, along with dropdown menus for role and profile.

ユーザの編集 [保存] [保存 & 新規] [キャンセル]

一般情報 = 必須情報

姓: 田中  
 名: 一郎  
 別名: 田中  
 メール: @jp.op  
 ユーザ名: appswfdemo001@appsw

ロール: <未指定>  
 ユーザライセンス: Salesforce  
 プロファイル: [dropdown]  
 有効:   
 マーケティングユーザ:

- システム管理者権限を付与するユーザの場合、「プロフィール」で「AppsWF Admin」を選択します。  
一般ユーザ権限を付与するユーザの場合、「プロフィール」で「AppsWF Standard」を選択します。



- 【保存】 ボタンをクリックします。

**Point**

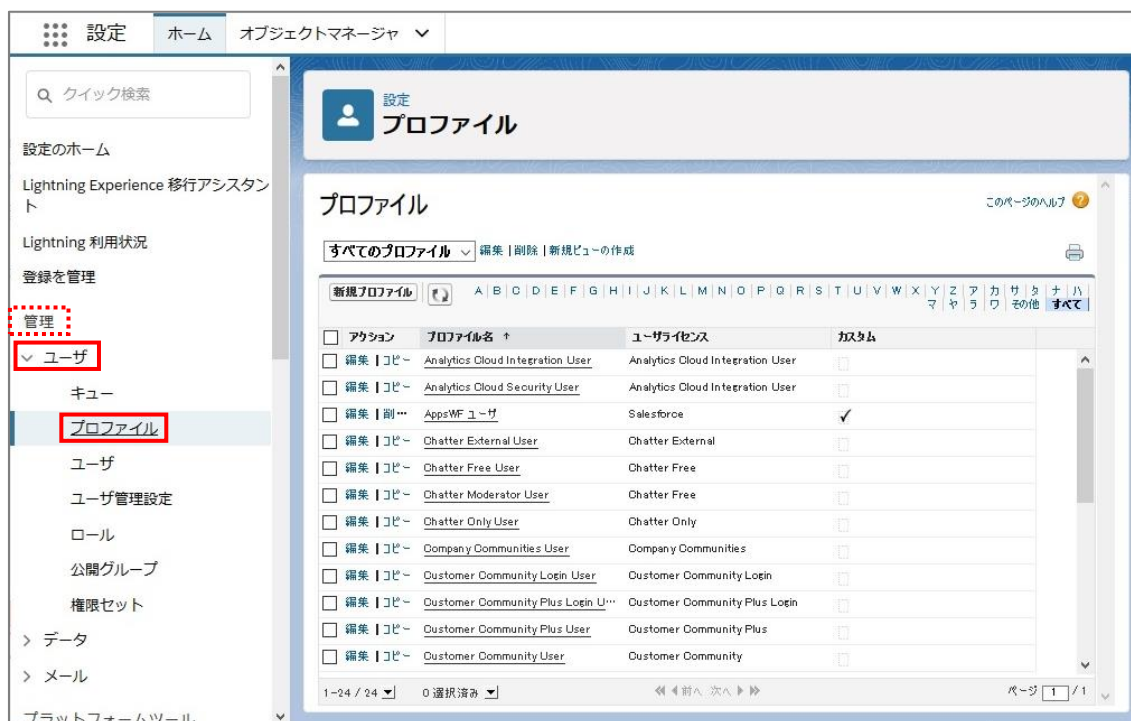
- プロフィール「AppsWF Admin」は、監査履歴情報のページレイアウトに項目が表示されます。
- プロフィール「AppsWF Standard」は、監査履歴情報のページレイアウトに項目が表示されません。

**【参照】** 監査履歴情報とは「案件処理履歴」「案件プロパティ」「案件情報」のことを指します。  
詳細については、「AppsWF ユーザガイド (Salesforce 版)」の「4 補足」「4.1 監査証跡ログの表示」を参照してください。

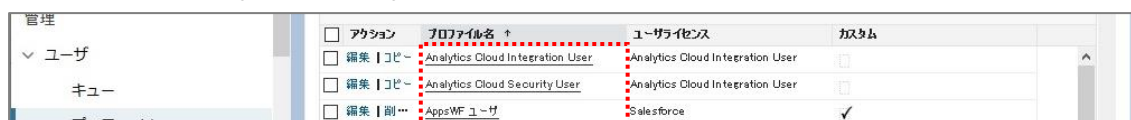
## 2.7.2 パッケージに含まれない既存のプロファイルを利用する場合

パッケージに含まれない既存のプロファイルに権限を設定します。

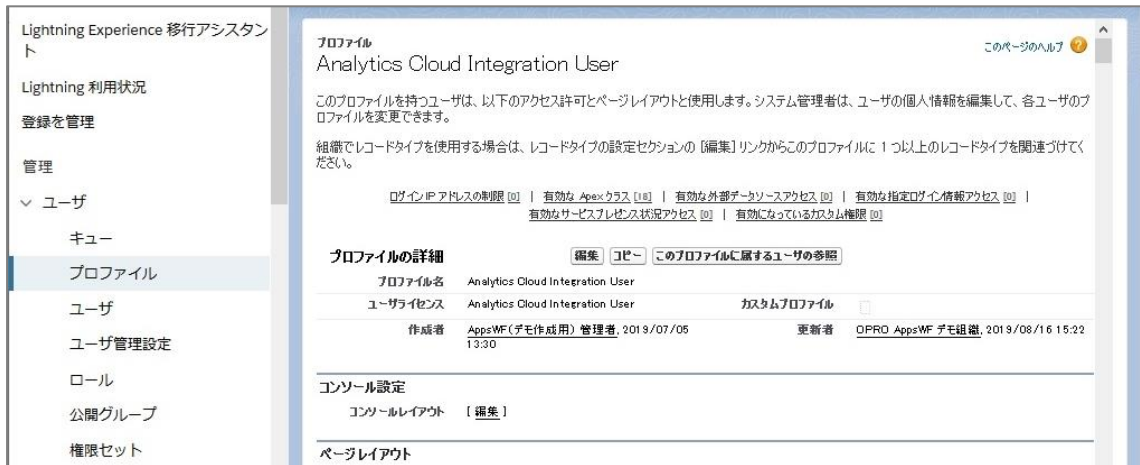
- 画面右上の [設定] > [設定] をクリックします。
- 「設定ホーム」画面が表示されます。
- サイドバーの「管理」で [ユーザ] > [プロフィール] をクリックします。「プロフィール」画面が表示されます。



- 対象プロフィールの [{プロフィール名}] をクリックします。



5. 「プロフィール{プロフィール名}」画面が表示されます。



**Point** 以降は「プロフィール{プロフィール名}」画面での手順、またはそこから呼び出した画面での手順になります。

■「ページレイアウト」内の「カスタムオブジェクトレイアウト」の設定手順

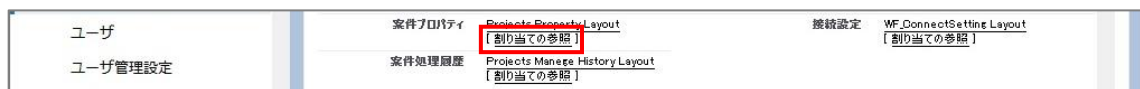
1. 「プロフィール{プロフィール名}」画面を下にスクロールして「カスタムオブジェクトレイアウト」エリアを表示します。



2. オブジェクト「案件プロパティ」「案件処理履歴」「案件情報」のページレイアウトを設定します。



3. 各オブジェクトの右下にある「割り当ての参照」をクリックします。

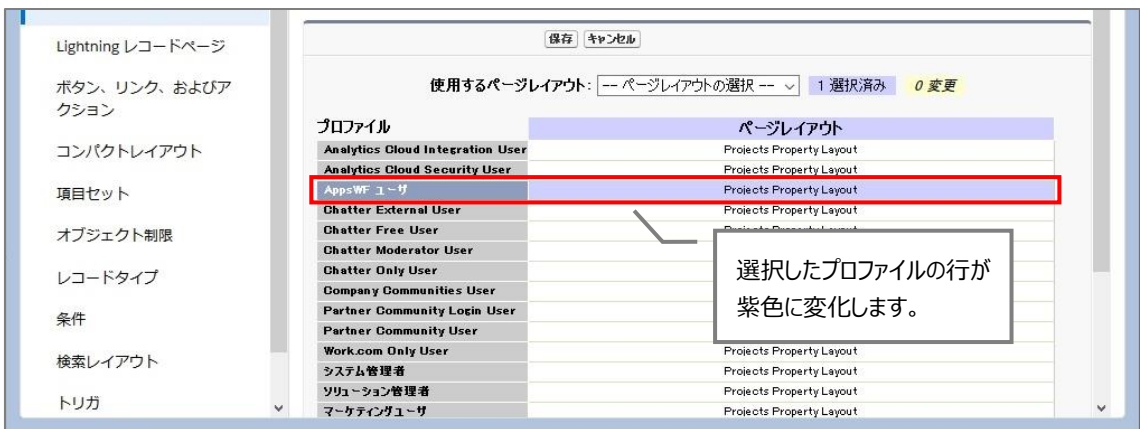




4. 「レイアウトの割り当て{オブジェクト名}」画面が表示されます。[割り当ての編集] ボタンをクリックします。



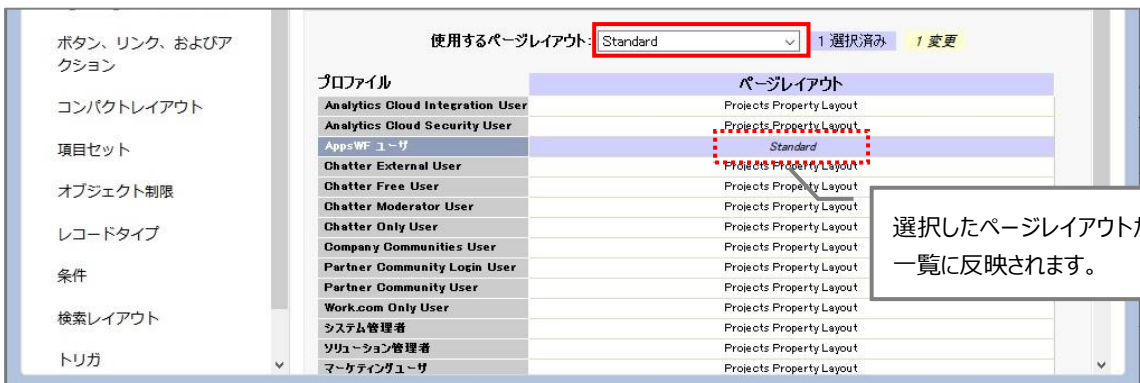
5. 編集モードになります。ページレイアウトを設定するプロフィールを一覧から選択します。



**Point**

- プロフィールが 1 つの場合、対象行をクリックして選択します。
- プロフィールが複数の場合、[Shift] キーまたは [Ctrl] キーとマウスを併用して選択します。  
Windows フォルダでファイルを選択する操作と同様です。詳細は [このページのヘルプ] で確認できます。

6. 「使用するページレイアウト」で、前の手順で選択したプロフィールに使用するページレイアウトを選択します。



**Point** 監査履歴情報の参照を許可する場合／許可しない場合によって、次のページレイアウトを選択します。

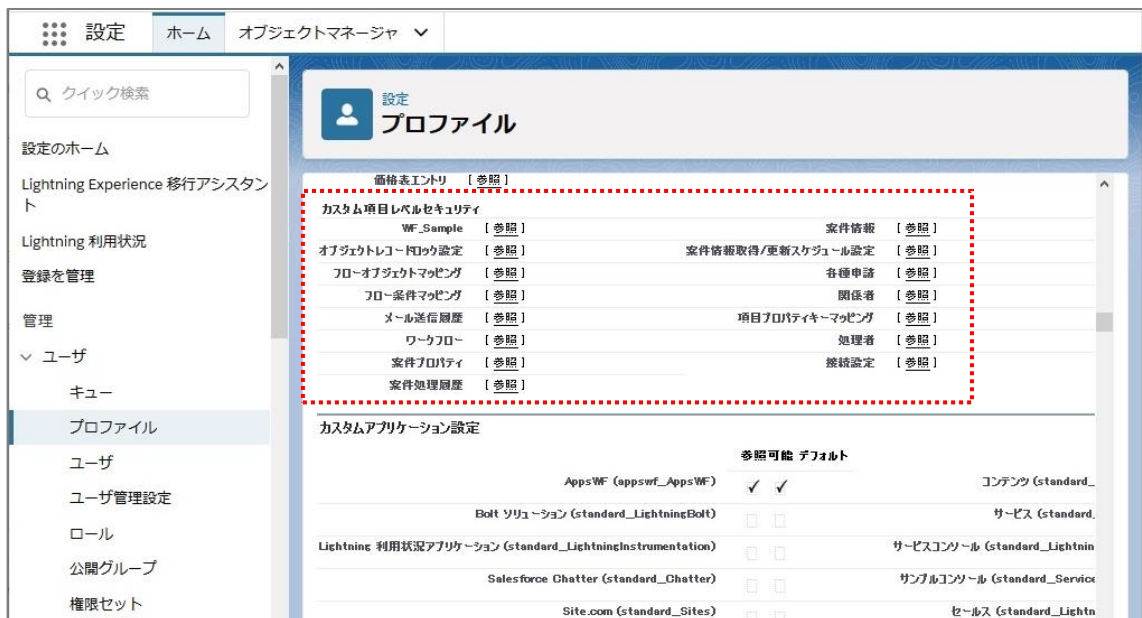
オブジェクト	許可する場合	許可しない場合
案件プロパティ	「Projects Property Layout」	「Standard」
案件処理履歴	「Projects Manage History Layout」	「Standard」
案件情報	「Case Information Layout」	「Standard」

**【参照】** 監査履歴情報の詳細については、「AppsWF ユーザガイド（Salesforce 版）」の「4 補足」  
「4.1 監査証跡ログの表示」を参照してください。

7. 「保存」ボタンをクリックします。

■「項目レベルセキュリティ」内の「カスタム項目レベルセキュリティ」の設定手順

1. 「プロフィール{プロフィール名}」画面を下にスクロールして「カスタム項目レベルセキュリティ」エリアを表示します。



2. 次のオブジェクトの参照アクセス権をすべてオンにします。

- 「オブジェクトレコードロック設定」
- 「フローオブジェクトマッピング」
- 「フロー条件マッピング」
- 「メール送信履歴」
- 「ワークフロー」
- 「案件プロパティ」
- 「案件処理履歴」
- 「案件情報」
- 「案件情報取得/更新スケジュール設定」
- 「関係者」
- 「項目プロパティキーマッピング」
- 「処理者」
- 「接続設定」

3. 各オブジェクトの右にある [参照] をクリックします。

ユーザ キュー	ワークフロー	[参照]	処理者	[参照]
	案件プロパティ	[参照]	接続設定	[参照]
	案件処理履歴	[参照]		

4. 「{プロフィール名}プロフィールの{オブジェクト名}項目レベルセキュリティ」画面が表示されます。  
[編集] ボタンをクリックします。

Lightning Experience 移行アシスタント

Lightning 利用状況

登録を管理

管理

ユーザ

キュー

プロフィール

ユーザ

ユーザ管理設定

ロール

### Analytics Cloud Integration Userプロフィールの 案件プロパティ 項目レベルセキュリティ

[編集] プロフィールに戻る

項目名	データ型	参照アクセス権	編集アクセス権
Column Name of User Data ID	テキスト	✓	✓
Lead Information	参照関係	✓	✓
Lead Property Key	テキスト	✓	✓
Lead Property Value	テキスト	✓	✓
User Data ID	テキスト	✓	✓
案件プロパティ番号	自動採番	✓	<input type="checkbox"/>
最終更新者	参照関係	✓	<input type="checkbox"/>
作成者	参照関係	✓	<input type="checkbox"/>

[編集] プロフィールに戻る

5. 編集モードになります。「参照アクセス権」のチェック可能な箇所すべてチェックを付けます。

Lightning 利用状況

登録を管理

管理

ユーザ

キュー

プロフィール

ユーザ

ユーザ管理設定

ロール

保存 キャンセル

項目名	データ型	参照アクセス権	編集アクセス権
Column Name of User Data ID	テキスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Lead Information	参照関係	✓	✓
Lead Property Key	テキスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
Lead Property Value	テキスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
User Data ID	テキスト	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
案件プロパティ番号	自動採番	✓	<input type="checkbox"/>
最終更新者	参照関係	✓	<input type="checkbox"/>
作成者	参照関係	✓	<input type="checkbox"/>

6. [保存] ボタンをクリックします。

■「タブの設定」内の「カスタムタブの設定」、「カスタムオブジェクト権限」の設定手順

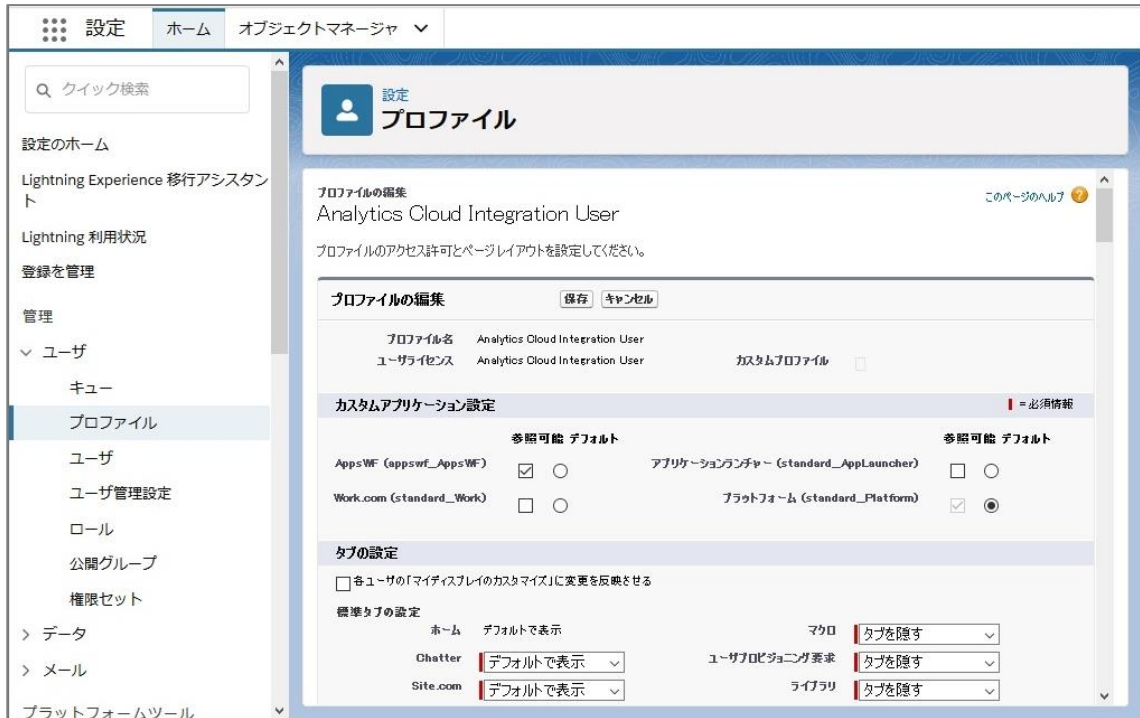
1. 「プロフィール{プロフィール名}」画面の先頭ページに戻ります。



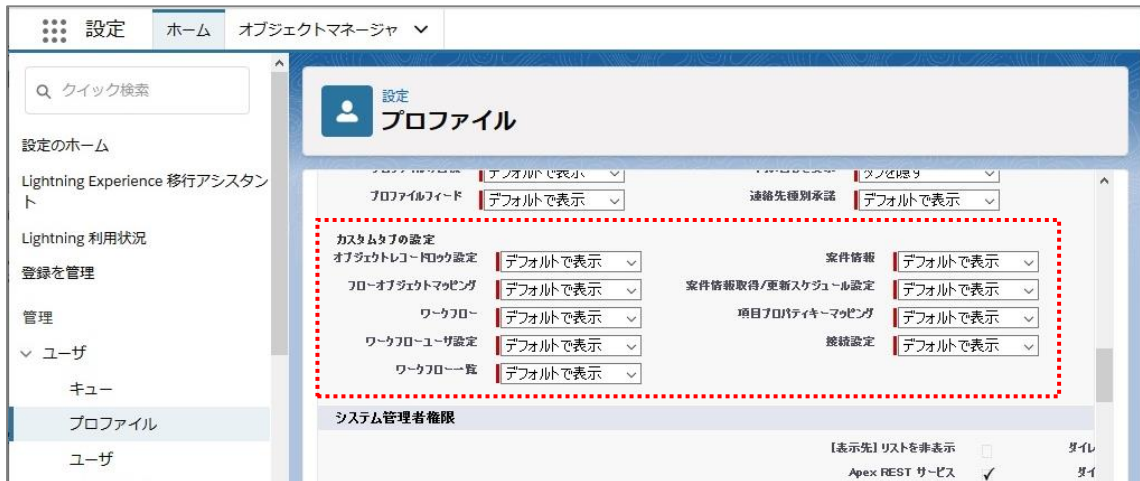
2. [編集] ボタンをクリックします。



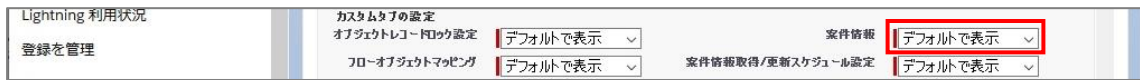
3. 編集モードになります。



4. 画面を下にスクロールして「カスタムタブの設定」エリアを表示します。



5. 「案件情報」でタブの設定を選択します。



**Point**

監査履歴情報の参照を許可する場合／許可しない場合によって、次のタブの設定を選択します。

オブジェクト	許可する場合	許可しない場合
案件情報	「デフォルトで表示」	「タブを隠す」

**【参照】** 監査履歴情報の詳細については、「AppsWF ユーザガイド（Salesforce 版）」の「4 補足」 「4.1 監査証跡ログの表示」を参照してください。

**Point**

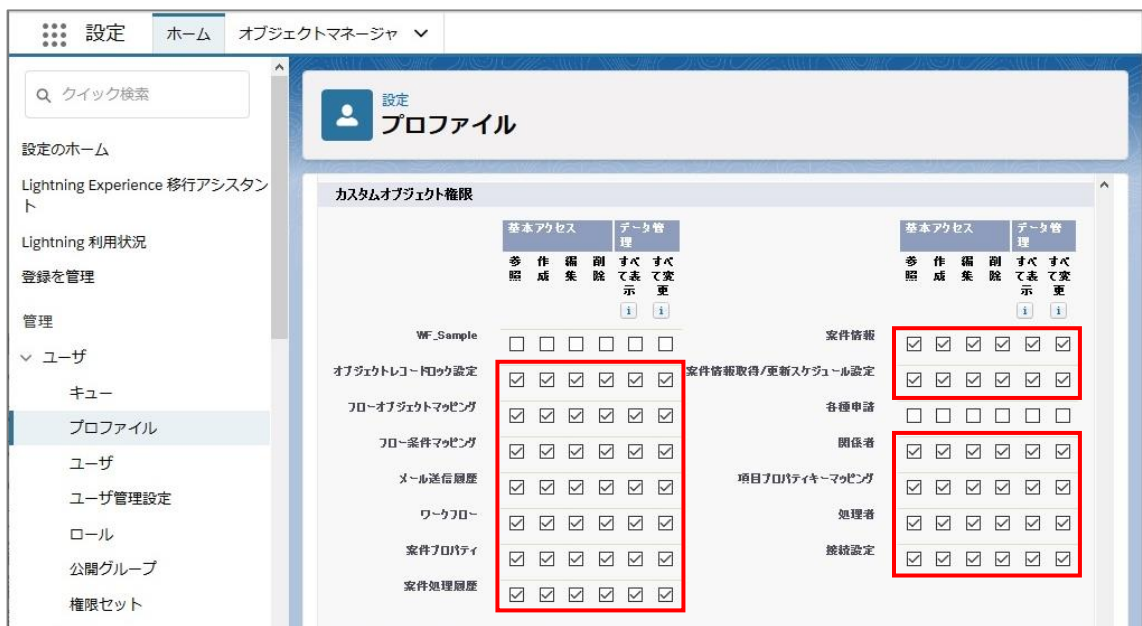
- ここで編集作業を終了する場合は、先頭ページに戻り【保存】ボタンをクリックしてください。
- 引き続き「カスタムオブジェクト権限」の設定を行う場合は、次の手順へ進んでください。

6. 画面を下にスクロールして「カスタムオブジェクト権限」エリアを表示します。



7. 次のオブジェクトの「基本アクセス」にすべてチェックを付けます。

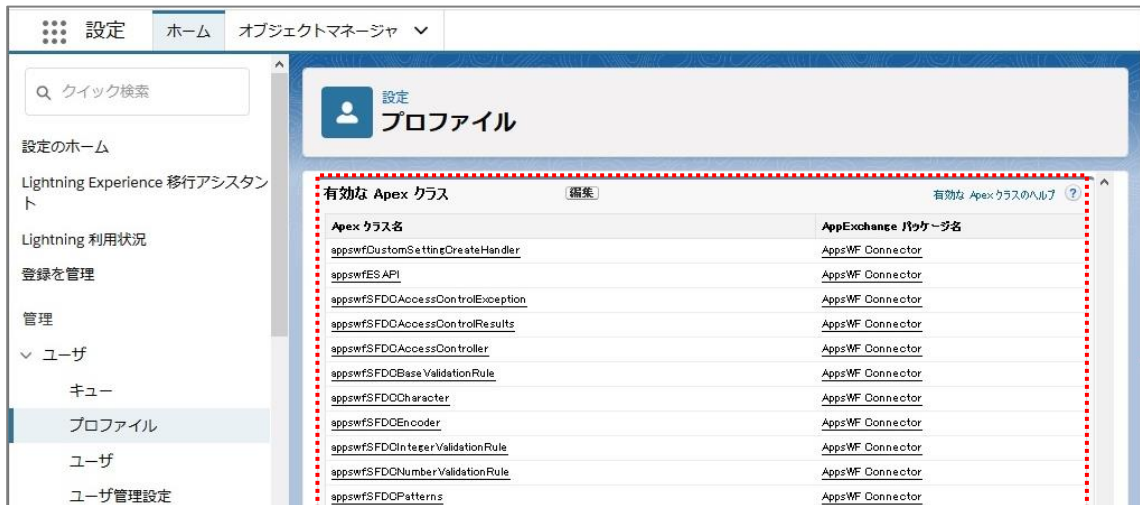
- 「オブジェクトレコードロック設定」
- 「フローオブジェクトマッピング」
- 「フロー条件マッピング」
- 「メール送信履歴」
- 「ワークフロー」
- 「案件プロパティ」
- 「案件処理履歴」
- 「案件情報」
- 「案件情報取得/更新スケジュール設定」
- 「関係者」
- 「項目プロパティキーマッピング」
- 「処理者」
- 「接続設定」



8. 画面を上部に戻して [保存] ボタンをクリックします。

■「有効な Apex クラス」の設定手順

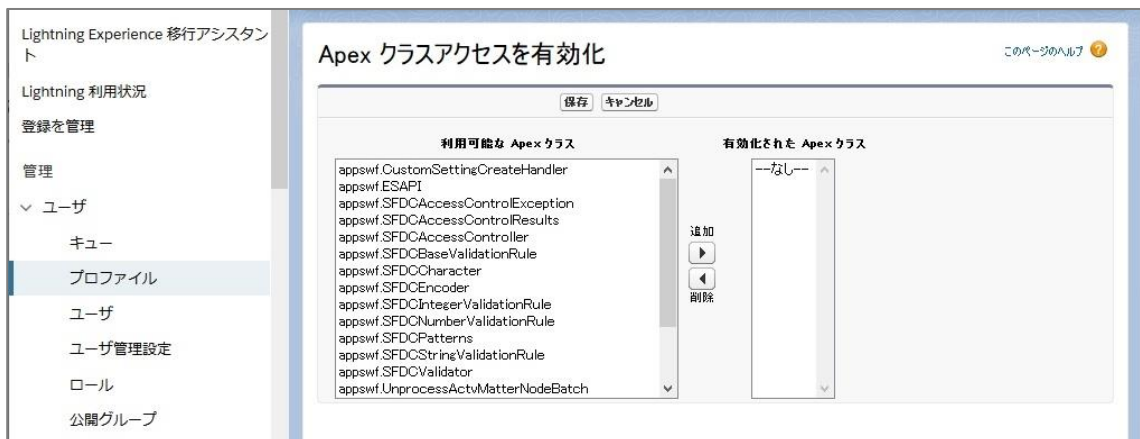
1. 「プロフィール{プロフィール名}」画面を下にスクロールして「有効な Apex クラス」エリアを表示します。



2. [編集] ボタンをクリックします。



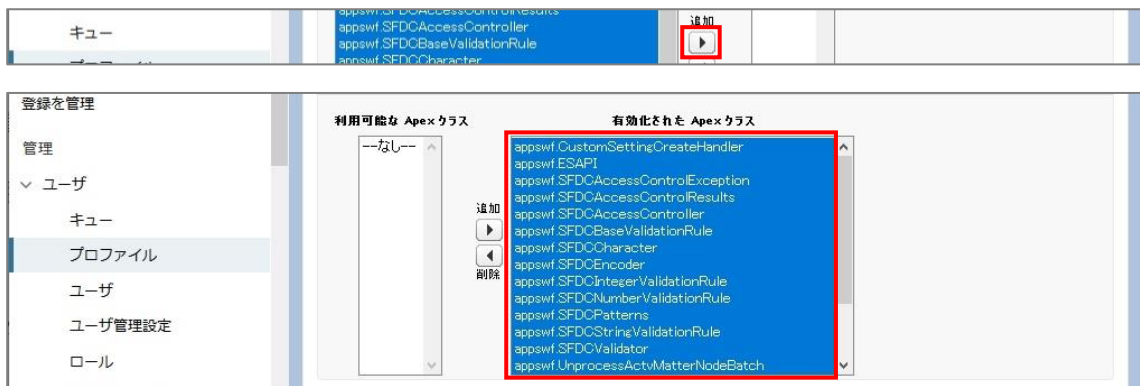
3. 「Apex クラスアクセスを有効化」画面が表示されます。



4. 「利用可能な Apex クラス」リスト内の「appswf」から始まるクラスをすべて選択します。



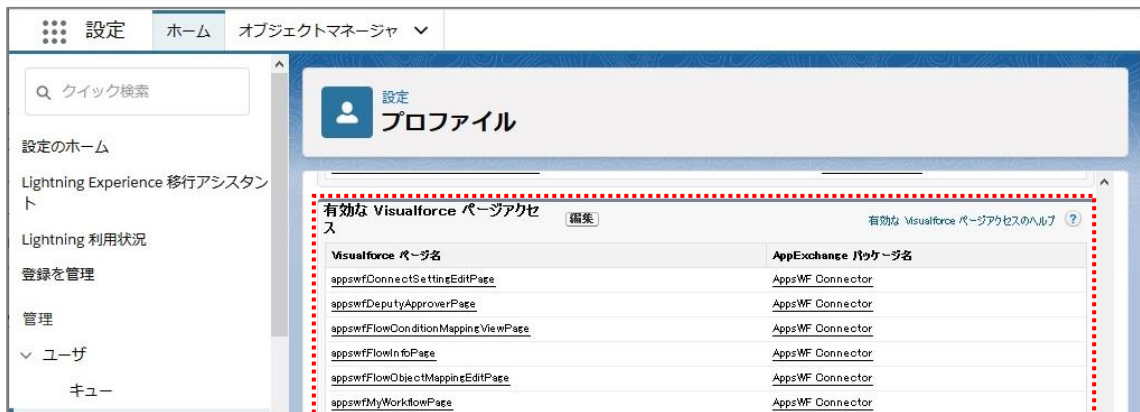
5. [▶] ボタンをクリックし、「有効化された Apex クラス」リストへ移動します。



6. [保存] ボタンをクリックします。

#### ■「有効な Visualforce ページアクセス」の設定手順

1. 「プロフィール{プロフィール名}」画面を下にスクロールして「有効な Visualforce ページアクセス」エリアを表示します。



**Point** ここからは、前ページの「「有効な Apex クラス」の設定手順」の手順 2 以降と同様に実施してください。

2. [編集] ボタンをクリックします。
3. 「Visualforce ページのアクセスを有効化」画面が表示されます。
4. 「利用可能な Visualforce ページ」リスト内の“appswf”から始まるクラスをすべて選択します。
5. [▶] ボタンをクリックし、「有効化された Visualforce ページ」リストへ移動します。
6. [保存] ボタンをクリックします。



## 3. ワークフローの設定

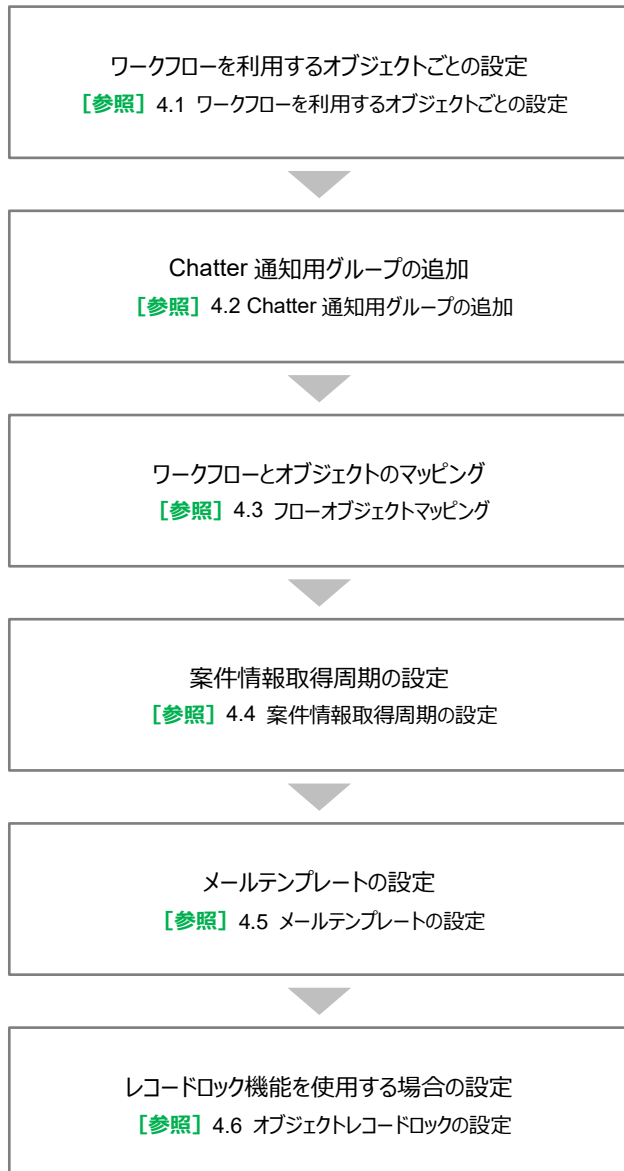
オブジェクトで利用するワークフローの設定を行います。

**[参照]** ワークフローの設定については、「AppsWF ワークフロー設定ガイド」を参照してください。

# 4. Salesforce の設定

ワークフローに紐づく Salesforce 側の設定を行います。「ワークフローを利用するオブジェクトごとの設定」から、「ワークフローとオブジェクトのマッピング」や「レコードロック機能を使用する場合の設定」等について説明します。

4 章における手順の流れは次のとおりです。



## 4.1 ワークフローを利用するオブジェクトごとの設定

ワークフローを利用するオブジェクトごとに、項目、入力規則、カスタムボタンの追加を行います。

### 4.1.1 ステータス表示用の項目追加

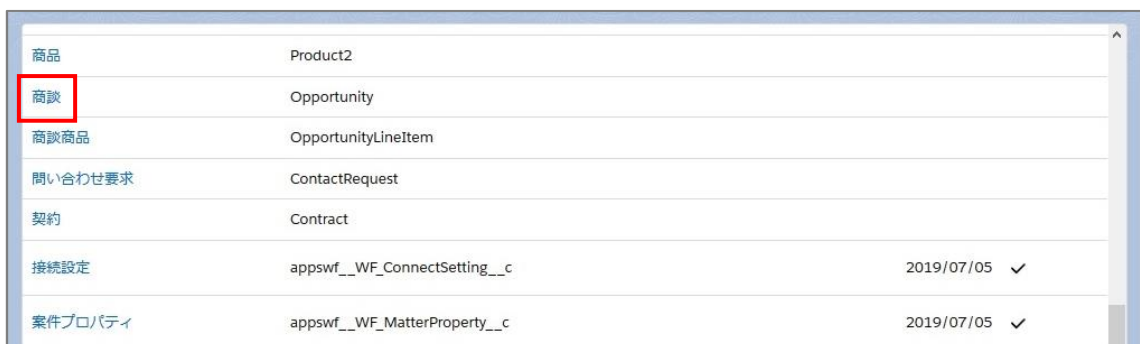
1. 画面右上の [⚙️] > [設定] をクリックします。
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。
3. [オブジェクトマネージャ] タブをクリックします。



4. 「オブジェクトマネージャ」画面が表示されます。画面をスクロールして該当オブジェクトを探します。



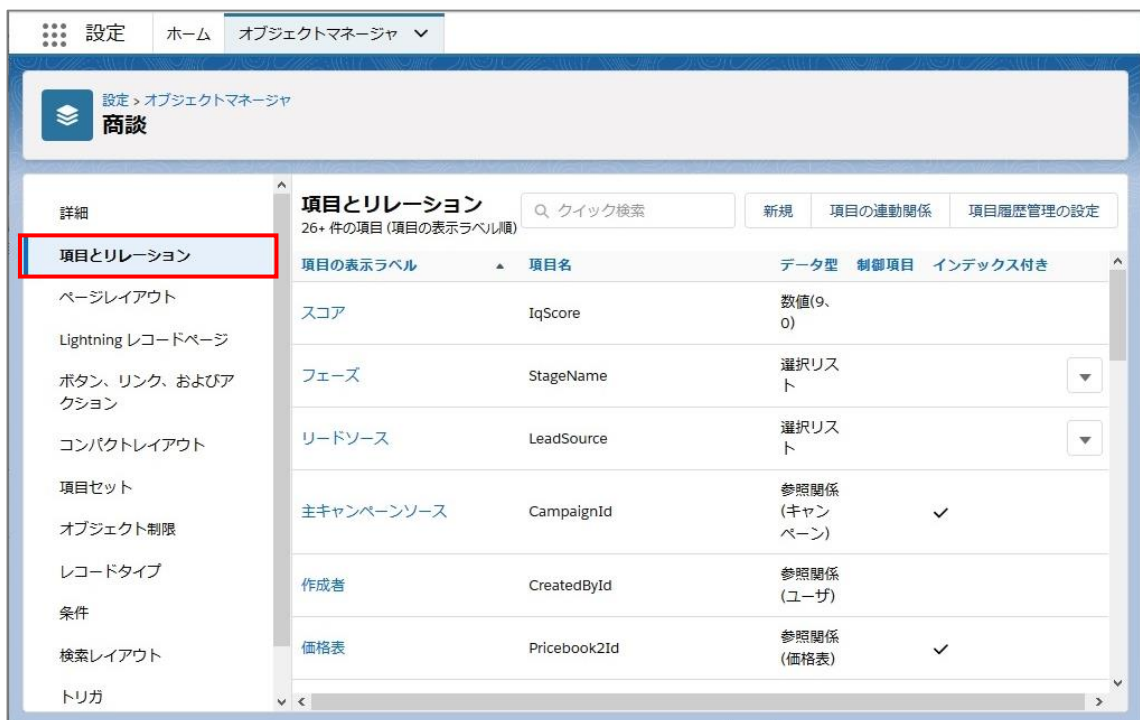
5. 該当オブジェクトの「表示ラベル」（ここでは例として [商談]）をクリックします。



6. 「{オブジェクト名}」の「詳細」画面が表示されます。



7. サイドバーの [項目とリレーション] をクリックします。「項目とリレーション」画面が表示されます。



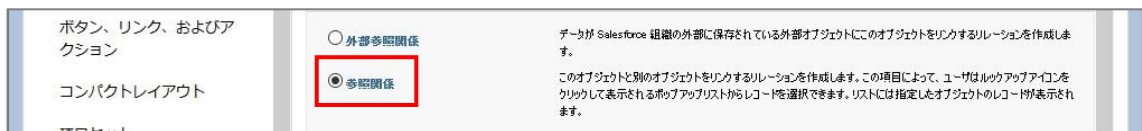
8. [新規] をクリックします。



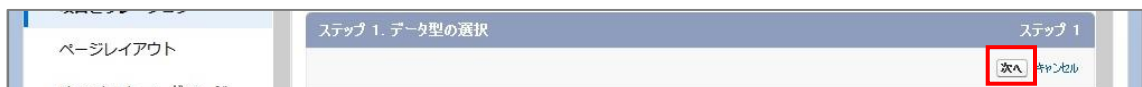
9. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 1. データ型の選択）」画面が表示されます。



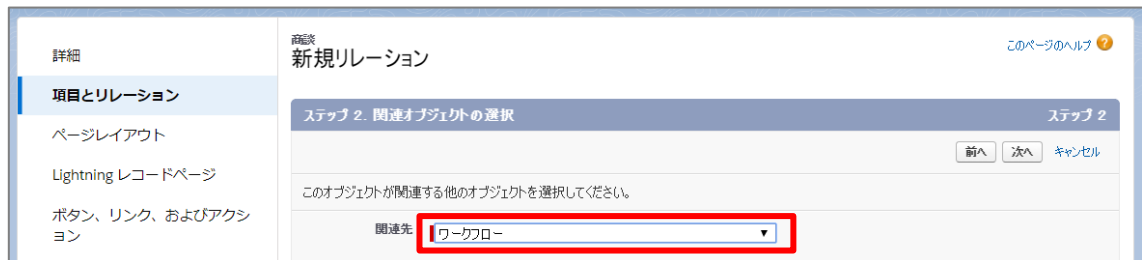
10. 「データ型」で「参照関係」を選択します。



11. [次へ] ボタンをクリックします。



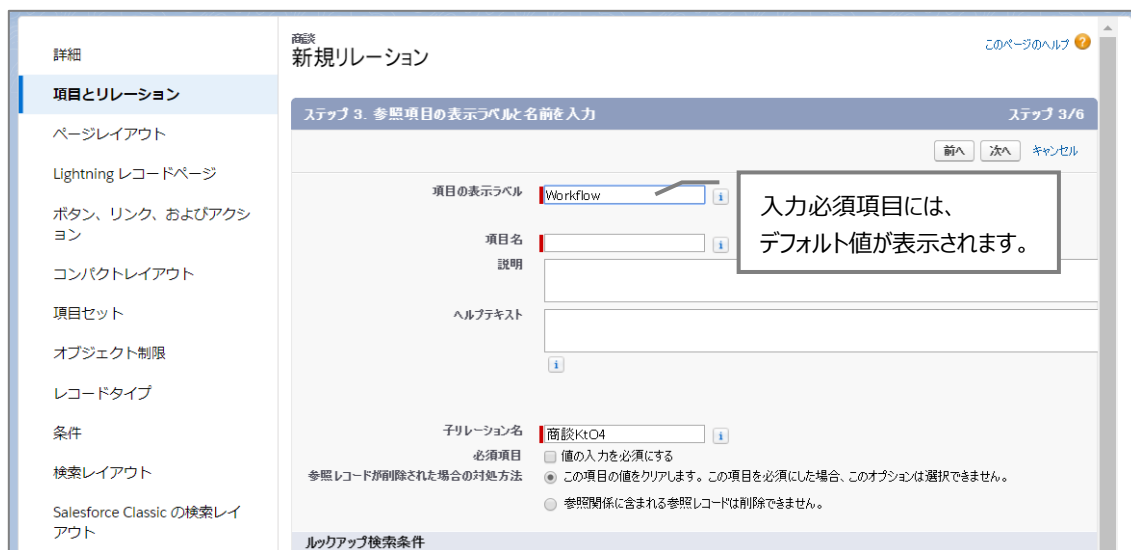
12. 「新規リレーション（ステップ 2. 関連オブジェクトの選択）」画面が表示されます。  
「関連先」に「ワークフロー」オブジェクトを選択します。



13. [次へ] ボタンをクリックします。



14. 「新規リレーション（ステップ 3. 参照項目の表示ラベルと名前を入力）」画面が表示されます。



15. 「項目の表示ラベル」に「Workflow」、「項目名」に「wf\_Workflow」と入力し、「子リレーション名」には任意の名称（ここでは例として「Workflow」）を入力します。



16. [次へ] ボタンをクリックします。



17. 「新規リレーション（ステップ 4. 参照項目に対する項目レベルセキュリティの設定）」画面が表示されます。



18. 「次へ」 ボタンをクリックします。



19. 「新規リレーション（ステップ 5. ページレイアウトへの参照項目の追加）」画面が表示されます。



20. 「次へ」 ボタンをクリックします。



21. 「新規リレーション（ステップ 6. カスタム関連リストの追加）」画面が表示されます。



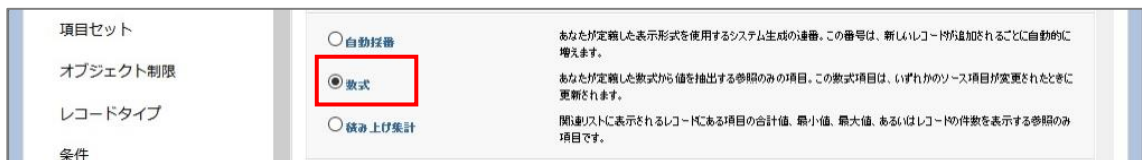
22. 「保存」ボタンをクリックします。

**Point** 項目追加を続けて行う場合、[保存] ボタンの代わりに [保存 & 新規] ボタンをクリックすると、「4.1.2 ステータスを表示する数式の項目追加」以降の項目追加の手順 1~3 を省略できます。ただし、入力規則とカスタムボタンの追加は、「{オブジェクト名}」の「詳細」画面から実施する必要があります。

#### 4.1.2 ステータスを表示する数式の項目追加

引き続き、同じオブジェクトに対する項目追加の手順を記載します。

1. 「{オブジェクト名}」の「詳細」画面で、サイドバーの [項目とリレーション] をクリックします。  
「項目とリレーション」画面が表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 1. データ型の選択）」画面が表示されます。
4. 「データ型」で「数式」を選択します。



5. 「次へ」ボタンをクリックします。





6. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 2. 出力型の選択）」画面が表示されます。



7. 「項目の表示ラベル」と「項目名」に「wf\_Status」と入力し、「数式の戻り値のデータ型」で「テキスト」を選択します。



8. 「次へ」ボタンをクリックします。

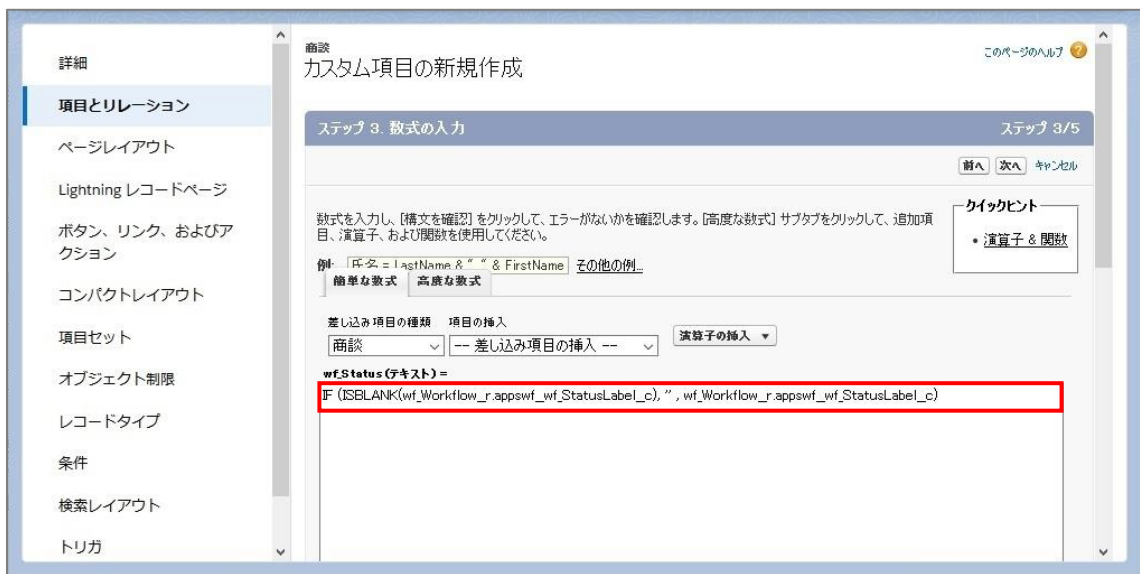


9. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 3. 数式の入力）」画面が表示されます。



10. 「wf\_Status (テキスト) =」に次の数式を入力します。

「IF (ISBLANK(wf\_Workflow\_\_r.appswf\_\_wf\_StatusLabel\_\_c), "", wf\_Workflow\_\_r.appswf\_\_wf\_StatusLabel\_\_c)」



11. 「次へ」 ボタンをクリックします。



12. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 4. 項目レベルセキュリティの設定）」画面が表示されます。



13. 「次へ」 ボタンをクリックします。



14. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 5. ページレイアウトへの追加）」画面が表示されます。



15. 「保存」 ボタンをクリックします。

### 4.1.3 優先度を表示する数式の項目追加

手順の流れは「4.1.2 ステータスを表示する数式の項目追加」と同じです。各項目の設定内容は、次のとおりです。

項目名	入力必須	説明
データ型	○	「数式」を選択します。
項目の表示ラベル	○	「wf_Priority」と入力します。
項目名	○	「wf_Priority」と入力します。
数式の戻り値のデータ型	○	「テキスト」を選択します。
wf_Priority (テキスト) =	-	次の数式を入力します。 「wf_Workflow__r.appswf__wf_PriorityLabel__c」

### 4.1.4 メールタイトル用数式の項目追加

メールテンプレートの件名に使用する数式項目を作成します。各項目の設定内容は、次のとおりです。

**【参照】** 4.5 メールテンプレートの設定で、メールテンプレートの編集を行うときに使用します。

項目名	入力必須	説明
データ型	○	「数式」を選択します。
項目の表示ラベル	○	任意の名称を入力します。 例) メールタイトル
項目名	○	「wf_WorkflowReferenceSubject」と入力します。
数式の戻り値のデータ型	○	「テキスト」を選択します。
{項目の表示ラベル} (テキスト) =	-	必要に応じて、数式を入力します。 <b>【参照】</b> 詳細については、画面右上の【クイックヒント 演算子 & 関数】をクリックしてください

**注意** 数式の内容は、値が 1 行の 200 文字以内のテキストになるようにします。  
値がそれ以上長くなった場合は、200 文字で切り落してメールの件名に使用されます。

### 4.1.5 メール本文用数式の項目追加

メールテンプレートの本文(内容)に使用する数式項目を作成します。各項目の設定内容は、次のとおりです。

**【参照】** 4.5 メールテンプレートの設定で、メールテンプレートの編集を行うときに使用します。

項目名	入力必須	説明
データ型	○	「数式」を選択します。
項目の表示ラベル	○	任意の名称を入力します。 例) メール本文
項目名	○	「wf_WorkflowReferenceContent」と入力します。
数式の戻り値のデータ型	○	「テキスト」を選択します。
{項目の表示ラベル} (テキスト) =	-	必要に応じて、数式を入力します。 [参照] 詳細については、画面右上の [クイックヒント 演算子 & 関数] をクリックしてください

**注意**

数式の内容は、値が 2000 文字以内のテキストになるようにします。  
 値がそれ以上長くなった場合は、2000 文字で切り落してメールの内容に使用されます。  
 複数行のテキストでも問題ありませんが、BR()関数を使用した場合、<br>と表示されて改行できません。  
 改行には、下記を使用します。  
 SUBSTITUTE(\$Label.appswf\_\_linebreak,'\_','  
<math>SUBSTITUTE(\\$Label.appswf\\_linebreak,'\\_','</math>  
 数式の内容に対する他の制限は、Salesforce 制限のみとなります。下記を参照ください。  
[https://help.salesforce.com/articleView?id=formula\\_field\\_limits.htm&type=0](https://help.salesforce.com/articleView?id=formula_field_limits.htm&type=0)

## 4.1.6 レコードロック用の項目追加

レコードロック機能を使用する場合、専用のチェックボックス項目を追加します。

**[参照]** レコードロック機能については、「4.6 オブジェクトレコードロックの設定」を参照してください。

引き続き、同じオブジェクトに対する項目追加の手順を記載します。

1. 「{オブジェクト名}」の「詳細」画面で、サイドバーの [項目とリレーション] をクリックします。  
「項目とリレーション」画面が表示されます。
2. [新規] をクリックします。
3. 「カスタム項目の新規作成 (ステップ 1. データ型の選択)」画面が表示されます。
4. 「データ型」で「チェックボックス」を選択します。

5. [次へ] ボタンをクリックします。

6. 「カスタム項目の新規作成 (ステップ 2. 詳細を入力)」画面が表示されます。

7. 「項目の表示ラベル」と「項目名」に「wf\_Lock」と入力し、「デフォルト値」が「チェックなし」であることを確認します。

8. [次へ] ボタンをクリックします。



9. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 3. 項目レベルセキュリティの設定）」画面が表示されます。



10. [次へ] ボタンをクリックします。



11. 「カスタム項目の新規作成（ステップ 4. ページレイアウトへの追加）」画面が表示されます。



12. [保存] ボタンをクリックします。

**Point** レコードロック用の項目を追加したオブジェクトはワークフロー対象とみなされ、以下の画面で「オブジェクト名」の検索をすると選択リストに表示されます。

- ・「フローオブジェクトマッピングの編集」（「4.3.1 フローオブジェクトマッピングの手順」、手順 8 の画面）
- ・「オブジェクトロック設定」（「4.6.1 レコードロック機能を使用する場合の設定手順」、手順 8 の画面）

## 4.1.7 レコードロック用の入力規則追加

引き続き、同じオブジェクトに対する入力規則を追加する手順を記載します。

1. 「{オブジェクト名}」の「詳細」画面で、サイドバーの [入力規則] をクリックします。  
「入力規則」画面が表示されます。



2. [新規] をクリックします。



3. 「{オブジェクト名}入力規則」（ここでは例として「商談入力規則」）画面が表示されます。





4. ルール名に「RecordLockCheck」と入力し、「エラー条件数式」に次の数式を入力します。

「ISCHANGED(wf\_Lock\_\_c) = False && wf\_Lock\_\_c = True」

5. 「エラーメッセージ」に「レコードがロックされているため編集できません。」と入力します。

6. [保存] ボタンをクリックします。

#### 4.1.8 ワークフロー画面遷移用のカスタムボタン追加

引き続き、同じオブジェクトに対するカスタムボタン追加の手順を記載します。

1. 「{オブジェクト名}」の「詳細」画面で「API 参照名」を Windows のメモ帳等にコピーします。

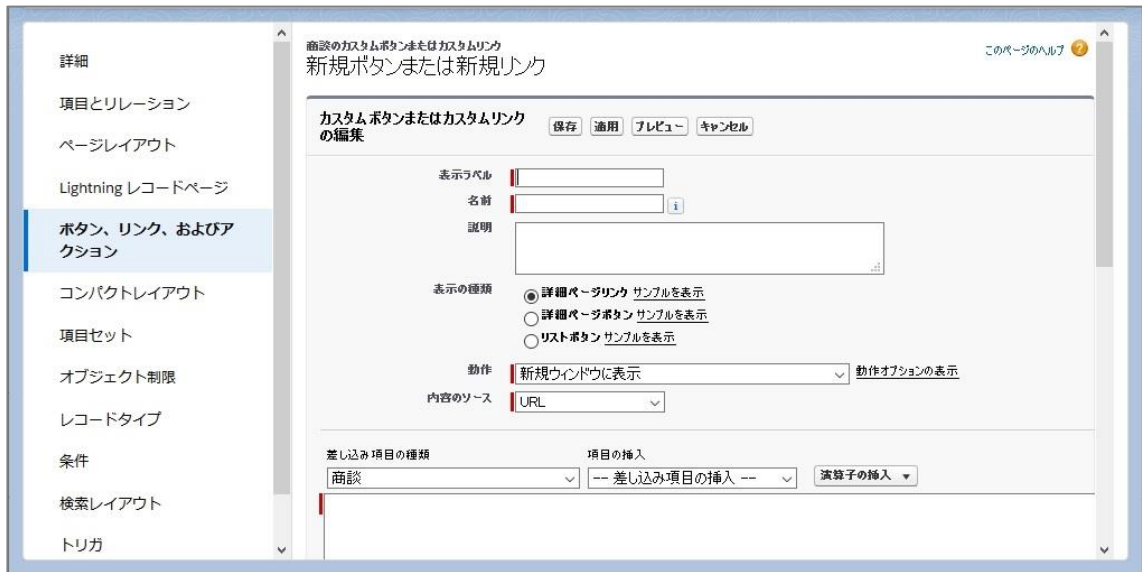
2. サイドバーの [ボタン、リンク、およびアクション] をクリックします。  
「ボタン、リンク、およびアクション」画面が表示されます。



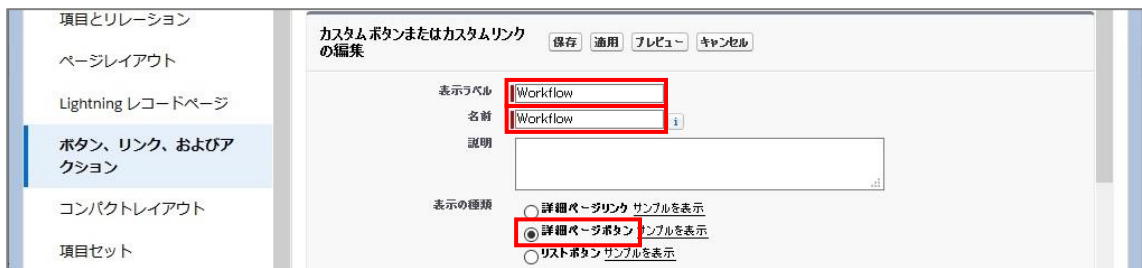
3. [新規ボタンまたはリンク] をクリックします。



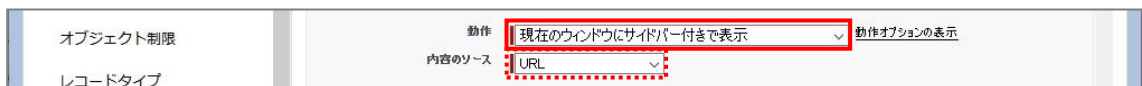
4. 「新規ボタンまたは新規リンク」画面が表示されます。



5. 「表示ラベル」と「名前」に「Workflow」と入力し、「表示の種類」で「詳細ページボタン」を選択します。

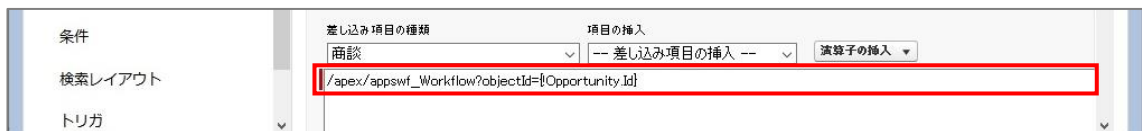


6. 「動作」で「現在のウィンドウにサイドバー付きで表示」を選択し、「内容のソース」が「URL」であることを確認します。



7. 「差し込み項目」で次のとおり入力します。

「/apex/appswf\_\_Workflow?objectId={!API 参照名}.Id}」



**Point**

手順 1 でコピーした「API 参照名」を「差し込み項目」に組み込みます。  
 例) 「API 参照名」が「Opportunity」の場合、次のとおり入力します。  
 /apex/appswf\_\_Workflow?objectId={!Opportunity.Id}

8. 画面をスクロールして「リンクのエンコード」が「Unicode(UTF-8)」であることを確認します。



9. 「保存」 ボタンをクリックします。

## 4.2 Chatter 通知用グループの追加

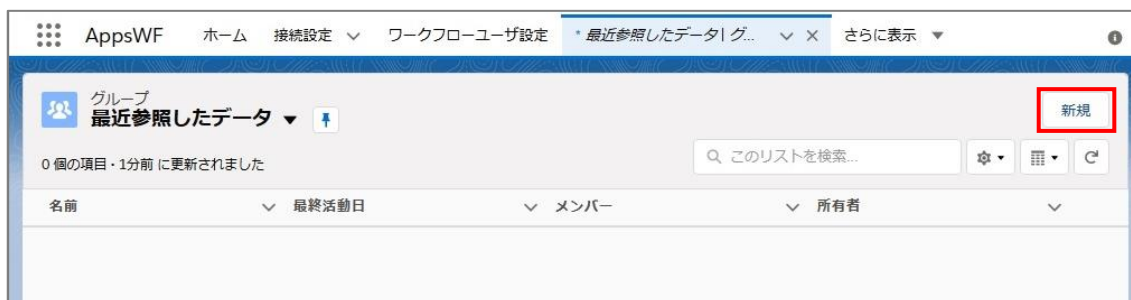
Chatter 通知に利用する Chatter グループを追加します。

### 4.2.1 Chatter 通知用グループの追加手順

1. 画面左上の [ ] をクリックします。
2. アプリケーションランチャーが表示されます。
3. [グループ] をクリックします。



4. 「最近参照したデータ」画面が表示されます。[新規] をクリックします。



5. 「新規グループ」画面が表示されます。

The screenshot shows the '新規グループ' (New Group) form. It includes a text input field for '\*名前' (Name), a larger text area for '説明' (Description), and a rich text editor for '情報' (Information). The rich text editor has a font dropdown set to 'Salesforce Sans' and a size dropdown set to '12'. Below the editor are buttons for 'キャンセル' (Cancel) and '保存 & 次へ' (Save & Next).

6. 「名前」に任意のグループ名を入力します。

7. 「保存 & 次へ」 ボタンをクリックします。

## 4.3 フローオブジェクトマッピング

フローとオブジェクトのマッピングを行います。

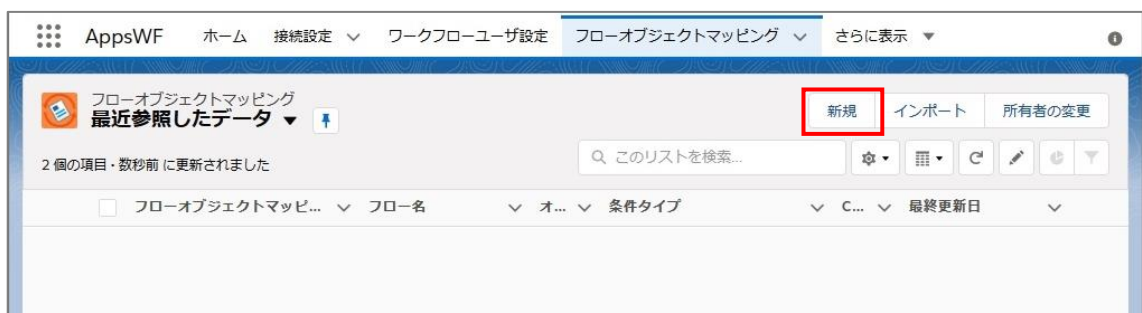
### 4.3.1 フローオブジェクトマッピングの手順

すでに AppsWF が起動している場合は、手順 5 から開始してください。

1. 画面左上の [ ] をクリックします。
2. アプリケーションランチャーが表示されます。
3. [AppsWF] をクリックします。
4. AppsWF の画面が表示されます。
5. [フローオブジェクトマッピング] タブをクリックします。



6. 「最近参照したデータ」画面が表示されます。[新規] をクリックします。

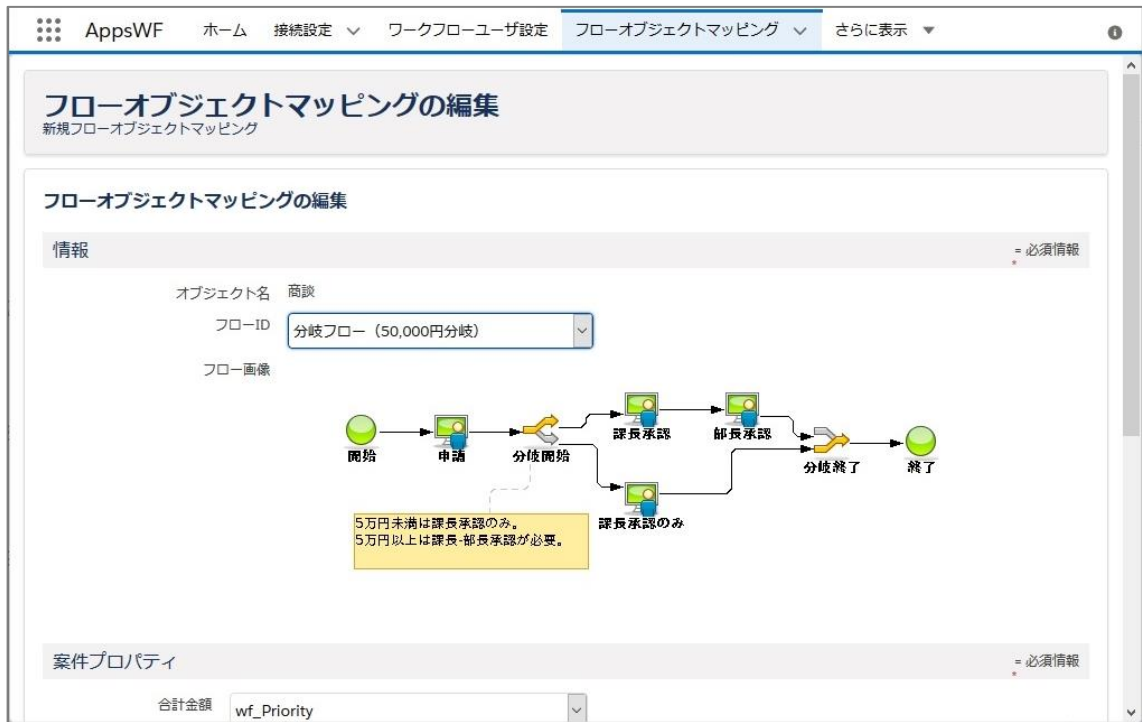


7. 「フローオブジェクトマッピングの編集」画面が表示されます。

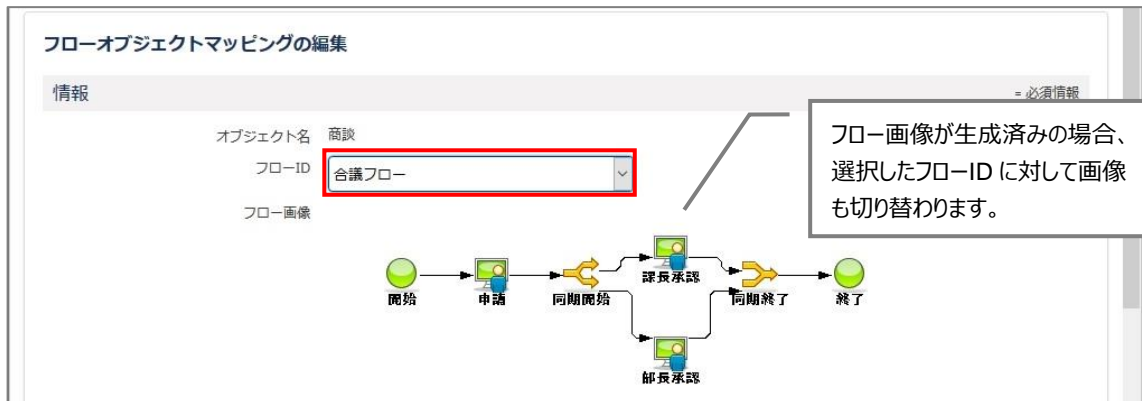
8. 「オブジェクト名」にワークフロー対象オブジェクトの検索キー（ここでは例として「商」）を入力します。入力すると、名称が部分一致するワークフロー対象オブジェクトのリストが表示されます。

9. リストから該当オブジェクト（ここでは例として「商談」）を選択し、[次へ] ボタンをクリックします。

10. 「フローID」や「条件タイプ」を選択する画面が表示されます。

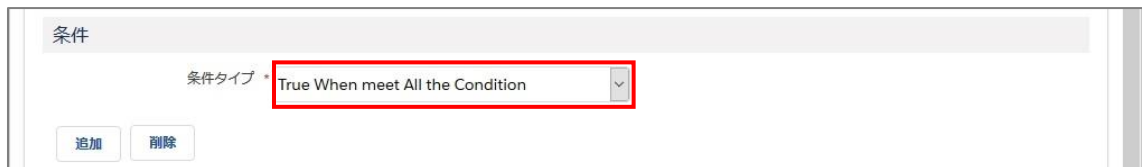


11. 「フローID」でマッピングを行うワークフローを選択します。



12. 「条件タイプ」で次のいずれかを選択します。

- 「True When meet All the Condition」 (すべての条件を満たすとき真)
- 「True When at least One Condition」 (いずれか 1 つの条件を満たすとき真)



13. 必要に応じて、「Chatter グループ ID」で Chatter 通知用の Chatter グループを入力します。

14. [保存] ボタンをクリックします。

## 4.4 案件情報取得周期の設定

案件情報を何分間隔で取得するかを設定します。

### 4.4.1 案件情報取得周期の設定手順

1. 画面左上の [ ] をクリックします。
2. アプリケーションランチャーが表示されます。
3. [案件情報取得/更新スケジュール設定] をクリックします。



4. 「最近参照したデータ」画面が表示されます。[新規] をクリックします。



5. 「新規案件情報取得/更新スケジュール設定」画面が表示されます。





6. 「実行間隔(分)」で「なし」「5」「10」「20」「30」「60」のいずれかを選択します。  
例) 「30」を選択した場合、30 分間隔で最新の案件情報を取得



新規案件情報取得/更新スケジュール設定

情報

案件情報取得/更新スケジュール設定番号

所有者  
OPRO AppsWF デモ組織

\* 実行間隔(分)

30

ScheduleIds

キャンセル 保存 & 新規 保存

7. 「保存」 ボタンをクリックします。

## 4.5 メールテンプレートの設定

AppsWF では申請や承認時に Salesforce のメールテンプレートを利用して送信します。

### 4.5.1 メールテンプレートの確認

1. 画面右上の [設定] > [設定] をクリックします。
2. 「設定ホーム」画面が表示されます。
3. サイドバーの「管理」で [メール] > [Classic メールテンプレート] をクリックします。  
[Classic メールテンプレート] 画面が表示されます。

アクション	メールテンプレート名 *	テンプレートの種類	有効	説明	著者	最終更新日
編集   削除	Marketing Product Inquiry Response	テキスト	✓	Standard email response to website product inquiries		2019/04/12
編集   削除	Sales: New Customer Email	テキスト	✓	Email to new customers		2019/04/12
編集   削除	Support Case Assignment Notification	テキスト	✓	Notification to rep when case is auto-assigned		2019/04/12
編集   削除	Support Case Created (Phone Inquiries)	テキスト	✓	Notification to customer about case created through phone call		2019/04/12
編集   削除	Support Case Created (Web Inquiries)	テキスト	✓	Notification to customer about case created online		2019/04/12
編集   削除	Support Case Response	テキスト	✓	Standardized template for responses to customer inquiries		2019/04/12
編集   削除	Support Escalated Case Notification	テキスト	✓	Notification email on case escalation		2019/04/12
編集   削除	Support Escalated Case Reassignment	テキスト	✓	Case reassignment email to new case owner on escalation		2019/04/12

4. 「AppsWF」フォルダを選択すると、以下のメールテンプレートが確認できます。

アクション	メールテンプレート名 *	テンプレートの種類	有効	説明	著者	最終更新日
編集   削除	AppsWF.Apply.Template	テキスト	✓	Workflow Applied		2020/02/04
編集   削除	AppsWF.Approve.Template	テキスト	✓	Workflow Approved		2020/02/04
編集   削除	AppsWF.Deny.Template	テキスト	✓	Workflow Rejected		2020/02/04
編集   削除	AppsWF.SendBack.Template	テキスト	✓	Workflow Sent Back		2020/02/04

メールテンプレート名	説明
AppsWF Apply Template	承認者に送付されるメールテンプレート
AppsWF Approve Template	承認されると送付されるメールテンプレート
AppsWF Deny Template	否認時に送付されるメールテンプレート
AppsWF SendBack Template	差戻時に送付されるメールテンプレート

## 4.5.2 メールテンプレートの設定方法

メールテンプレートの[編集]をクリックすると、メールテンプレートの内容を確認できます。

テキスト メールテンプレートの編集 このページのヘルプ  
 AppsWF Apply Template (管理)

差し込み項目を使用して、メールの内容をカスタマイズします。差し込み項目には、代替テキストを追加できます。代替テキストは、その項目用の差し込みレコードにデータがない場合にのみ表示されます。差し込み項目のカスタム後に、代替テキストを入力してください (例: {Contact.LastName,お客様}). テンプレートを保存すると、差し込み項目は、テンプレートのメール本文に、{NullValue(Contact.LastName,"お客様")}様の構文で表示されます。メールテンプレートのサンプルを参照するには、次のリンクをクリックしてください。

[サンプルメールテンプレートの参照](#)

注意: 説明の項目は組織内使用のみとなります。これは、一括メール送信時に、活動履歴の件名として使用されます。

---

**差し込み項目ルックアップ**

差し込み項目の種類 差し込み  
 取引先責任者の項目 ▼

差し込み項目IDをコピーし以下のテンプレート内に貼り付けてください。

---

👍 このメールテンプレートは管理されています。つまり、編集できるのは特定の属性のみです。 [詳細情報の表示](#)

---

**メールテンプレートの編集** 保存 保存 & 新規 キャンセル

メールテンプレート ! = 必須情報

フォルダ AppsWF ▼  
 有効   
 メールテンプレート名 AppsWF Apply Template  
 テンプレートの一意的な名前 WF\_APPLY ⓘ  
 名前空間プレフィックス appswf  
 インストール済みパッケージ AppsWF Connector  
 文字コード Unicode(UTF-8) ▼  
 説明 Workflow Applied  
 件名 Workflow Applied: {appswf\_WF\_Workflow\_c.appswf\_wfObjectRecordSubjec  
 メール内容

Dear {Receiving\_UserName} ({Receiving\_User.Username}),  
 An approval process is applied, and assigned to you.  
 Log in to Salesforce, and check the My Workflow List.

[Process Information]  
 Status: {appswf\_WF\_Workflow\_c.appswf\_wfStatusLabel\_c}  
 Priority: {appswf\_WF\_Workflow\_c.appswf\_wfPriorityLabel\_c}  
 Updated at: {DATETIMEVALUE(appswf\_WF\_Workflow\_c.LastModifiedDate)}

保存 保存 & 新規 キャンセル

メールテンプレートの「件名」及び「メール内容」に以下を設定することで、送信されるメールの件名や本文に任意の文字列を差し込むことができますようになります。

**【参照】** 以下設定内容の項目は 4.1.4 メールタイトル用数式の項目追加及び 4.1.5 メール本文用数式の項目追加で設定済みです。

項目	設定内容
メールの件名	{!appswf__WF_Workflow__c.appswf__wf_ObjectRecordSubject__c}
メールの内容	{!appswf__WF_Workflow__c.appswf__wf_ObjectRecordContent__c}

**【参照】** メールテンプレートについて、詳しくは下記をご参照ください。

[https://help.salesforce.com/articleView?id=admin\\_emailtemplates.htm&type=5](https://help.salesforce.com/articleView?id=admin_emailtemplates.htm&type=5)

## 4.6 オブジェクトレコードロックの設定

ワークフローを利用するオブジェクトにてレコードロック機能を使用したい場合は、オブジェクトレコードロックの設定を行います。レコードロック機能を ON にすると、ワークフロー申請後「4.1.6 レコードロック用の項目追加」で追加したチェックボックス項目が自動的に ON になります。

### 4.6.1 レコードロック機能を使用する場合の設定手順

すでに AppsWF が起動している場合は、手順 5 から開始してください。

1. 画面左上の [☰] をクリックします。
2. アプリケーションランチャーが表示されます。
3. [AppsWF] をクリックします。
4. AppsWF の画面が表示されます。
5. [オブジェクトレコードロック設定] タブをクリックします。



6. 「最近参照したデータ」画面が表示されます。[新規] をクリックします。



7. 「オブジェクトロック設定」画面が表示されます。



8. 「オブジェクト名」にレコードロック機能対象オブジェクトの検索キー（ここでは例として「商」）を入力します。入力すると、名称が部分一致するレコードロック機能対象オブジェクトのリストが表示されます。

The screenshot shows the 'オブジェクトロック設定' (Object Lock Settings) page. The breadcrumb trail includes 'AppsWF', 'ホーム', '接続設定', 'ワークフローユーザ設定', and 'オブジェクトレコードロック...'. The page title is 'オブジェクトロック設定' with the subtitle '新規オブジェクトロック設定'. Under the '情報' (Information) section, the 'オブジェクト名' (Object Name) field contains the text '商'. A dropdown menu is open below this field, listing several object types: 注文商品, 商談フェーズ, 商談, 商談 取引先責任者の役割, 商談商品, 商談: 競合, 商談パートナー, 商品, 商品履歴, 商品フィード, and 納入商品. The '商' field and the dropdown menu are highlighted with a red rectangular box.

9. リストから、該当オブジェクト（ここでは例として「商談」）を選択します。[次へ] ボタンをクリックします。

The screenshot shows the same 'オブジェクトロック設定' page. The 'オブジェクト名' field now contains '商談'. Below the field, there are two buttons: '次へ' (Next) and 'キャンセル' (Cancel). The '次へ' button is highlighted with a red rectangular box.

10. レコードロック機能の ON/OFF を切り替える画面が表示されます。

The screenshot shows the configuration page for the selected object '商談'. The 'オブジェクト名' field displays '商談'. Below it, there are two checkboxes: 'レコードロック機能 ON/OFF' and '一時保存でもロックする', both of which are currently unchecked. At the bottom of the form, there are two buttons: '保存' (Save) and 'キャンセル' (Cancel).

11. 「レコードロック機能 ON/OFF」にチェックを付けます。

### オブジェクトロック設定

新規オブジェクトロック設定

オブジェクトロック設定

情報 必須情報

オブジェクト名 商談

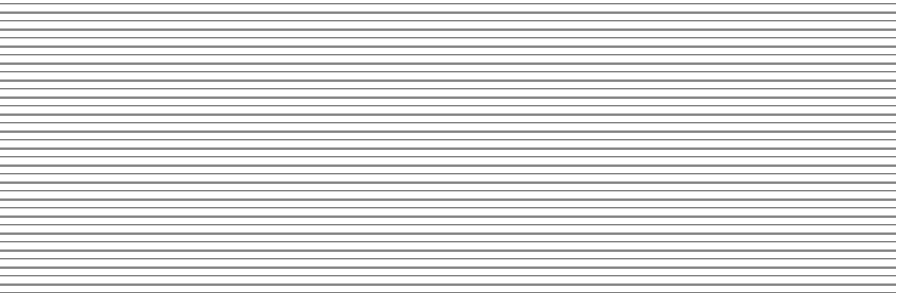
レコードロック機能 ON/OFF

一時保存でもロックする


**Point**

「一時保存でもロックする」にチェックを入れると、ステータスが一時保存の状態で作成されたワークフローアクションを実行した際に、「4.1.6 レコードロック用の項目追加」で追加したチェックボックス項目が自動的に ON になります。

12. 「保存」 ボタンをクリックします。



AppsWF セットアップガイド  
Salesforce 版



発行元 株式会社オプロ